

番号	8	令和7年度公共事業再評価調書			担当課名 河川海岸整備課																						
事業名	河川改修事業(広域河川改修事業)			事業主体	静岡県																						
箇所名	にきゅうかせんじんぐうじがわ 二級河川神宮寺川			関係市町	浜松市																						
事業採択年度	平成 28 年度		計画期間	平成28年度～令和14年度																							
用地着手年度	平成 28 年度		工事着手年度	平成 28 年度																							
再評価理由※	再評価実施後5年間が経過した時点で継続中																										
全体事業費	百万円 967	投資状況 (百万円)	～R5年度 568	R6年度 30	R7年度見込 19 計 617																						
事業概要	(1)事業目的 下流の資産集積区間については井伊谷川とのバランスの観点から年超過確率1/20規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とし、平成23年9月洪水で浸水被害が発生した横尾地区については再度災害防止の観点から、年超過確率1/10規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とする。																										
	(2)事業内容 施工延長： 1,500 m 河道拡幅工： 1,500 m 橋梁工： 1 橋																										
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 神宮寺川流域は事業採択時から土地利用に大きな変化は無いものの、平成23年9月台風15号の豪雨において堤防から越水し、家屋と農地が浸水した。このため、地元からは早急な治水対策が望まれている。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 7 年度時点) <table border="1"> <thead> <tr> <th>B/C (i=4%)</th> <th>参考:B/C (i=2%)</th> <th>参考:B/C (i=1%)</th> <th>EIRR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.2</td> <td>1.7</td> <td>2.0</td> <td>5.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 総便益 (B) 13.2 億円 (被害軽減便益：12.8億円、施設の残存価値：0.5億円) 総費用 (C) 10.8 億円 (建設費：9.7億円、維持管理費：1.0億円) ○見込まれる効果（定性的な効果） <ul style="list-style-type: none"> 被災可能性に対する不安の低減効果 治水安全度の向上による地価の上昇 流下阻害となっている橋梁の架替に合わせた道路幅員拡幅による地域交通の利便性の向上 (3)事業の進捗状況 (令和 7 年度見込み) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th>内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>63.8%</td> <td>(617 百万円 / 967 百万円)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事業量</td> <td>河道拡幅工</td> <td>21.3% (320 m / 1,500 m)</td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>100.0% (1 橋 / 1 橋)</td> </tr> <tr> <td>用地取得</td> <td>88.6% (14,803 m² / 16,713 m²)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	1.2	1.7	2.0	5.1%	区分	進捗率	内訳	事業費	63.8%	(617 百万円 / 967 百万円)	事業量	河道拡幅工	21.3% (320 m / 1,500 m)	橋梁工	100.0% (1 橋 / 1 橋)	用地取得	88.6% (14,803 m ² / 16,713 m ²)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																								
1.2	1.7	2.0	5.1%																								
区分	進捗率	内訳																									
事業費	63.8%	(617 百万円 / 967 百万円)																									
事業量	河道拡幅工	21.3% (320 m / 1,500 m)																									
	橋梁工	100.0% (1 橋 / 1 橋)																									
用地取得	88.6% (14,803 m ² / 16,713 m ²)																										
事業の必要性	評価 継続が妥当																										
【視点2】	下流工区（井伊谷川合流点から神宮寺橋付近までの区間）及び上流工区（横尾橋付近から黒渕橋付近までの区間）を対象にしており、現在は上流工区を整備中であり、令和5年度に水神橋の架替が完了した。地域住民の理解も得られており事業への期待も大きいことから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。																										
今後の事業の進捗の見込み	評価 継続が妥当																										
【視点3】	新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性																										
対応方針 (案)	(1)対応方針 (案) 本事業を 【 継続 】 する。 (2)理由 本事業は、河川改修により神宮寺川流域の浸水被害を軽減するものである。 当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨により、事業の必要性が一層高まっており、さらに事業の投資効果も見込まれ、地元住民の事業への期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。																										

費用便益比算出説明書

二級河川 神宮寺川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益B	[事業を実施しない場合の被害額] - [事業を実施した場合の被害額] + [施設の残存価値]	1,324百万円
総費用C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	1,079百万円
B / C		1.23

総便益

○事業の有無による被害額の差分

年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間67年(整備期間17年+50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値

評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned} B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\ &= 1,277.5 \text{ 百万円} + 46.8 \text{ 百万円} \\ &= 1,324.3 \text{ 百万円} \end{aligned}$$

※被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

○事業建設費

各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費

各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。

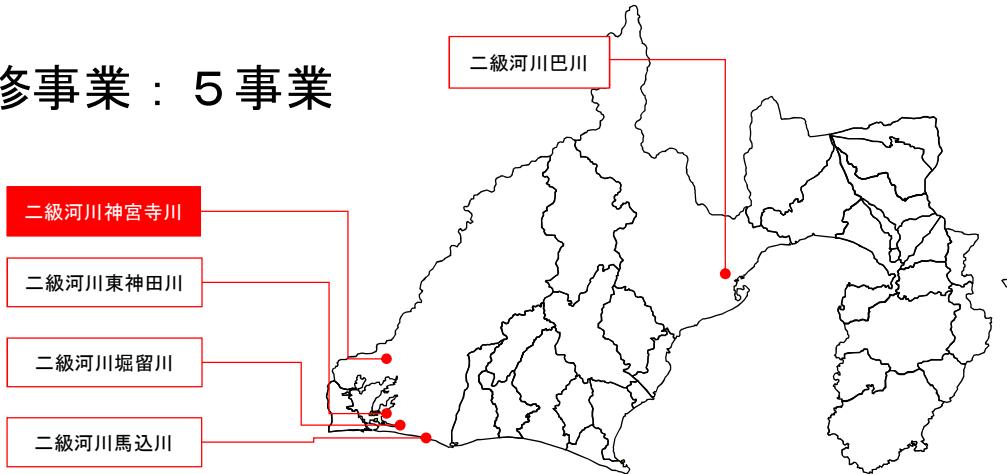
建設費の0.5%/年、評価対象期間:67年(整備期間17年+50年)

総費用

$$\begin{aligned} C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\ &= 974.5 \text{ 百万円} + 104.0 \text{ 百万円} \\ &= 1,078.5 \text{ 百万円} \end{aligned}$$

令和7年度 公共事業再評価

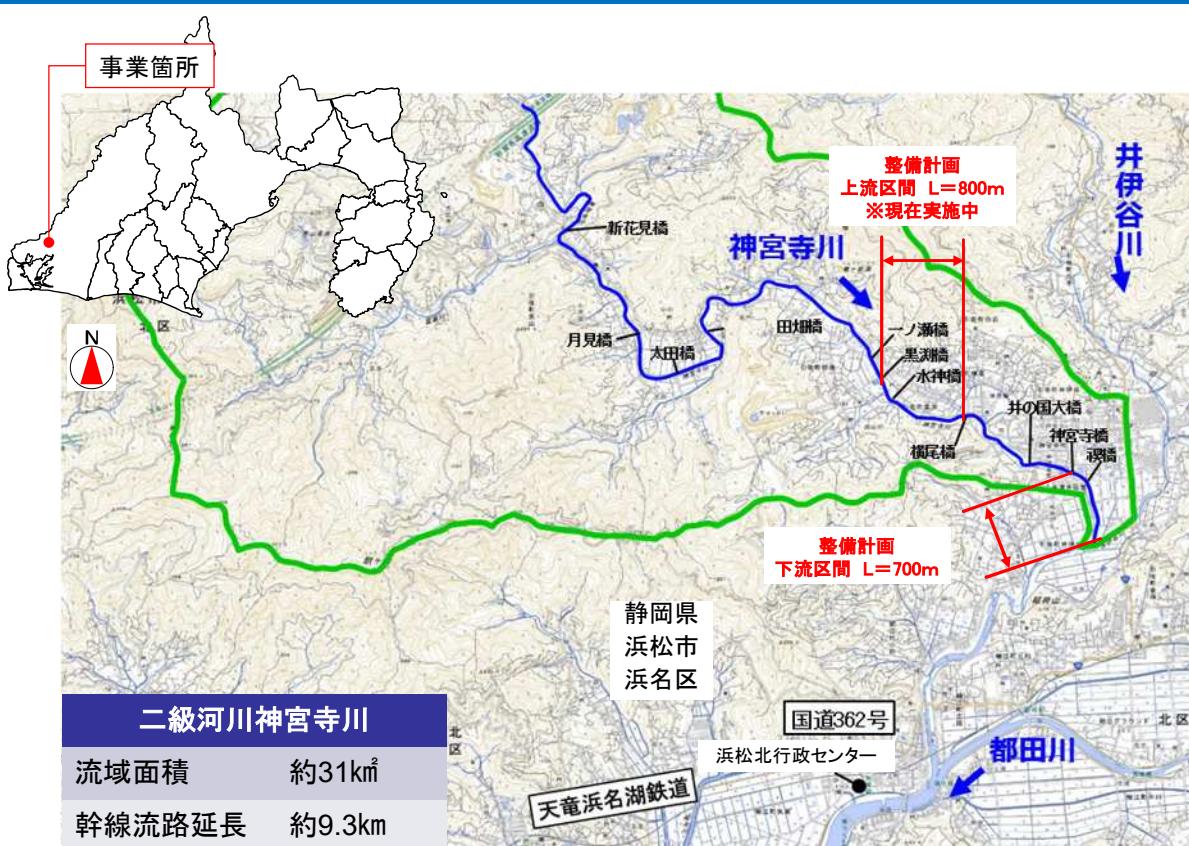
河川改修事業：5事業



番号	事業名	箇所名	代表事業
1	河川改修事業	二級河川神宮寺川	
2	河川改修事業	二級河川堀留川	
3	河川改修事業	二級河川東神田川	
4	河川改修事業	二級河川巴川	◎
5	地震・高潮対策事業	二級河川馬込川	

交通基盤部 河川砂防局 河川海岸整備課

1. 事業箇所位置図



2. 事業概要

浸水実績図



発生年 月日	水害 原因	被害家屋棟数(戸)		雨量規模(mm)		確率規模		観測所
		床上	床下	最大 1時間	最大 24時間	最大 1時間	最大 24時間	
H23.09.21	溢水	0	1	45.5	154.5	1/2	1/3	浜松 (気)
H26.10.05- 06	溢水	0	0	53.0	262.0	1/4	1/34	
H29.06.21	溢水	0	1	39.0	182.0	1/1	1/6	

写真等



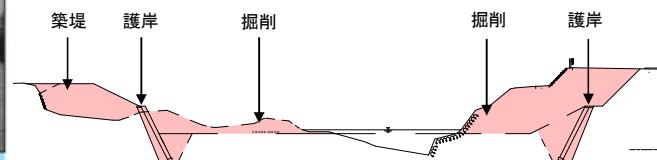
事業目的

下流の資産集積区間については井伊谷川とのバランスの観点から年超過確率1/20規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とし、平成23年9月洪水で浸水被害が発生した横尾地区については再度災害防止の観点から、年超過確率1/10規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とする。

事業内容

- ・計画期間 平成28年～令和14年
- ・事業内容 施工延長 1500m
河道改修(掘削工、護岸工など) 1500m
橋梁工 1橋
床止工 1基
- ・全体事業費 9.67億円

標準横断図



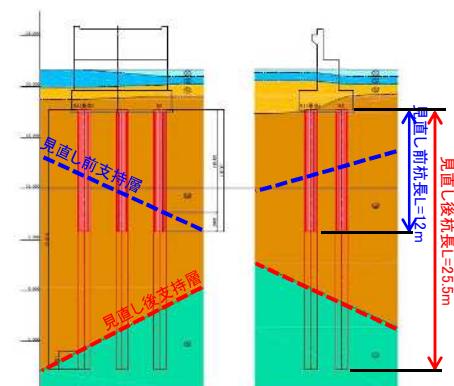
2. 事業概要

前回からの変更点・理由

区分	前回(R2)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	H28～R10	H28～R14 (+4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩掘削の追加による施工能率の低下 ・ 推定支持層の相違による見直し
②全体事業費	562百万円	967百万円 (+405百万円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩掘削の追加 ・ 推定支持層の相違による見直し ・ 物価及び労務費の上昇



岩盤の露出に伴う岩掘削作業



3. 事業の投資効果（費用便益比）

総便益(B) = 13.2 (億円)

➤被害軽減期待額 12.8 (億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 0.5 (億円)

総費用(C) = 10.8 (億円)

➤建設費(現在価値化) 9.7 (億円)

➤維持管理費(現在価値化) 1.0 (億円)

※令和6年換算価値

※文献(マニュアル)：「治水経済マニュアル(案)」
(国土交通省水管理・国土保全局、R6.4)

費用便益比(B/C)= 1.2

4. 事業の投資効果

【整備目標規模(年超過確率 上段:1/10 下段:1/20)洪水による氾濫シミュレーション結果】

整 備 前



整 備 後



浸水深(m)

~0.45
0.45~0.95
0.95~1.45
1.45~2.45
2.45~3.45
3.45~

↑
氾濫工区

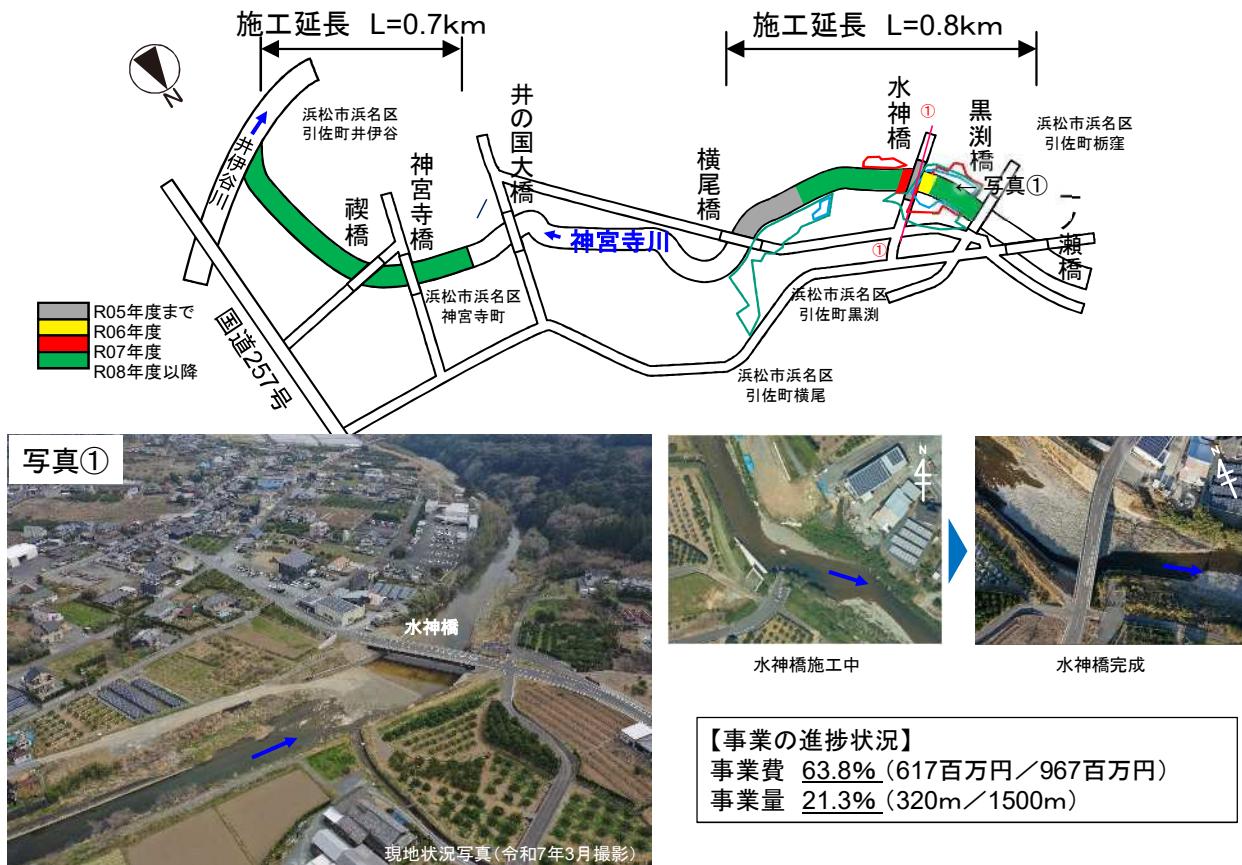
↓

↑
下流工区

↓

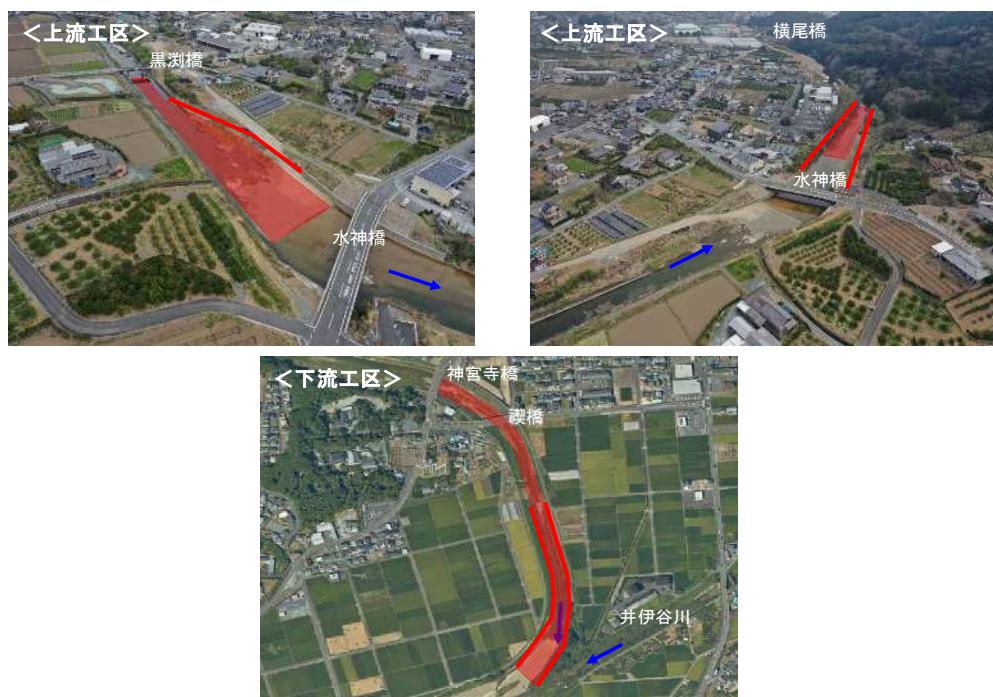
本事業を実施することにより
神宮寺川流域の浸水地域における浸水被害が軽減される

5. 事業の実施状況



6. 今後の事業の進捗の見込み

- 令和2年度以降、甚大な浸水被害は発生しておらず、事業の対策効果が出ている。
- 地域住民の理解も得られており事業への期待も大きい。
- 引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。



7 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

【河道掘削】

- 工事発生土は、近隣の公共事業に利用するなど、他事業と連携しコスト縮減に努める。

【護岸整備】

- 積みブロックの控え厚さ(35cm)を変えず、 $0.5\text{m}^3/\text{個}$ に大型化させることで施工の省力化を図る。



クイックブロック

NETIS登録番号:HR-240017-A



クイックブロック

竣工及び施工写真



8 . 対応方針（案）

◆事業の必要性

当該地区は、過去より浸水被害が頻発しており、地元から河川改修に対し強い要望がある。また、近年流域内において、新東名高速道路の整備や宅地化の進行がみられ、水害が発生した場合の危険度は増しており、当該事業に対する期待度は極めて高い。

◆事業の投資効果

B/C=1.2と1以上であることから事業の投資効果があると判断できる。

◆事業の進捗状況

令和5年に水神橋が竣工した。今後は上流工区(横尾橋から黒渕橋までの区間)の河道掘削及び護岸整備、下流工区(井伊谷川合流点から神宮寺橋までの区間)の河道掘削を行っていき、令和14年度までに整備を完了させる予定である。

事業は順調に進捗し、費用対効果も認められている。

また、地域住民の改修への期待が大きいため、

事業を継続する

令和7年度 公共事業の再評価に関する関係者等の意見と県の考え方(案)

資料5

事業名： 河川改修事業(広域河川改修事業)

箇所名： 二級河川神宮寺川

照会者： 神宮寺川流域の関係自治会

担当課：河川海岸整備課

番号	聴取した意見内容		意見に対する県の考え方
	意見	内容	
1	事業継続を要望	河道拡幅に伴う水神橋の架け替えにより、水害リスクの軽減やすれ違い困難箇所の解消が図られた。引き続き事業を進めてほしい。	早期完成に向けて事業を推進していく。
2	事業継続を要望	近年の降雨の状況から、いつ浸水被害が発生してもおかしくないため、引き続き事業を進めてほしい。	早期完成に向けて事業を推進していく。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

令和7年度公共事業再評価調書

担当課名

河川海岸整備課

番号	9	令和7年度公共事業再評価調書																										
事業名	河川改修事業			事業主体	静岡県																							
箇所名	(にきゅうかせんほりどめがわ) 二級河川堀留川			関係市町	浜松市																							
事業採択年度	平成 27 年度		計画期間	平成 27 年度 ~ 令和 26 年度																								
用地着手年度	平成 28 年度		工事着手年度	平成 28 年度																								
再評価理由※	再評価実施後 5 年間が経過した時点で継続中																											
全体事業費	百万円 17,800	投資状況 (百万円)	~R5年度 3,266	R6年度 366	R7年度見込 70																							
事業概要	<p>(1) 事業目的 概ね10年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることで、同規模洪水に対する床上浸水の発生を防止する。</p> <p>(2) 事業内容 施工延長 : 2,300 m 河道改修 : 2,300 m (築堤、河道掘削、護岸工) 橋梁工 : 6 橋 水門工 : 1 箇所</p>																											
【視点1】	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 当該地区は、過去より浸水被害が頻発しており、地元からの河川改修への要望が強い。また、市街化調整区域および人口集中地区に該当しており、流域内における民間開発や宅地化の進行が見られ、事業採択時と比べ、水害が発生した場合の危険度は増加しており、早期に治水安全度の向上を図る必要がある。</p> <p>(2) 事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 7 年度時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>B/C (i=4%)</th> <th>参考:B/C (i=2%)</th> <th>参考:B/C (i=1%)</th> <th>EIRR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.0</td> <td>10.4</td> <td>13.0</td> <td>25.4%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 総便益 (B) 1,100.7 億円 (被害軽減便益 : 1097.7億円、施設の残存価値 : 3.0億円) 総費用 (C) 156.6 億円 (建設費 : 140.0億円、維持管理費 : 16.6億円) <p>○見込まれる効果 (定性的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災可能性に対する不安の低減効果 治水安全度の向上による地価の上昇 病院等の公共サービスの停止等による波及被害の抑止効果 <p>(3) 事業の進捗状況 (令和 7 年度見込み)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th>内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>20.8%</td> <td>(3,702 百万円 / 17,800 百万円)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業量</td> <td>河道改修</td> <td>17.4% (400 m / 2,300 m)</td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>0.0% (0 橋 / 6 橋)</td> </tr> <tr> <td>水門工</td> <td>100.0% (1 箇所 / 1 箇所)</td> </tr> <tr> <td>用地取得</td> <td>36.2% (25,000 m² / 69,000 m²)</td> </tr> </tbody> </table>					B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	7.0	10.4	13.0	25.4%	区分	進捗率	内訳	事業費	20.8%	(3,702 百万円 / 17,800 百万円)	事業量	河道改修	17.4% (400 m / 2,300 m)	橋梁工	0.0% (0 橋 / 6 橋)	水門工	100.0% (1 箇所 / 1 箇所)	用地取得	36.2% (25,000 m² / 69,000 m²)
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																									
7.0	10.4	13.0	25.4%																									
区分	進捗率	内訳																										
事業費	20.8%	(3,702 百万円 / 17,800 百万円)																										
事業量	河道改修	17.4% (400 m / 2,300 m)																										
	橋梁工	0.0% (0 橋 / 6 橋)																										
	水門工	100.0% (1 箇所 / 1 箇所)																										
用地取得	36.2% (25,000 m² / 69,000 m²)																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>継続が妥当</th> </tr> </thead> </table>					評価	継続が妥当																					
評価	継続が妥当																											
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	新川合流部に設置する新設水門について令和元年度より着手し、令和 5 年度に完成した。「堀留川を考える住民会議」を設けるなど、地元も協力的であり、用地買収に向けた調整等も順調に進んでいる。 毎年のように甚大な浸水被害が発生しており、地元の期待度は非常に高く、事業に対し協力的であることから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>継続が妥当</th> </tr> </thead> </table>					評価	継続が妥当																					
評価	継続が妥当																											
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	工事発生土を近隣の公共事業に利用するなど、引き続き、他事業と連携し、コスト縮減に努める。道路管理者および地元自治会等と調整の上、橋梁の統廃合も検討し、コスト縮減に努める。																											
対応方針 (案)	<p>(1) 対応方針 (案) 本事業を [継続] する。</p> <p>(2) 理由 本事業は、河川改修及び水門整備により堀留川流域の浸水被害を軽減するものである。 当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨により、事業の必要性が一層高まっており、さらに事業の投資効果も見込まれ、地元住民の事業への期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。</p>																											

※「再評価理由」は、静岡県交通基盤部、くらし・環境部所管公共事業再評価実施要綱第2に規定する区分に従って記載する。

費用便益比算出説明書

二級河川 堀留川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益B	[事業を実施しない場合の被害額] - [事業を実施した場合の被害額] + [施設の残存価値]	110,072百万円
総費用C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	15,657百万円
B / C		7.03

総便益

○事業の有無による被害額の差分

年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間80年(整備期間30年+50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値

評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned} B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1 + 0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1 + 0.04)^n \\ &= 109,771.7 \text{百万円} + 300.5 \text{百万円} \\ &= 110,072.2 \text{百万円} \end{aligned}$$

※被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

○事業建設費

各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費

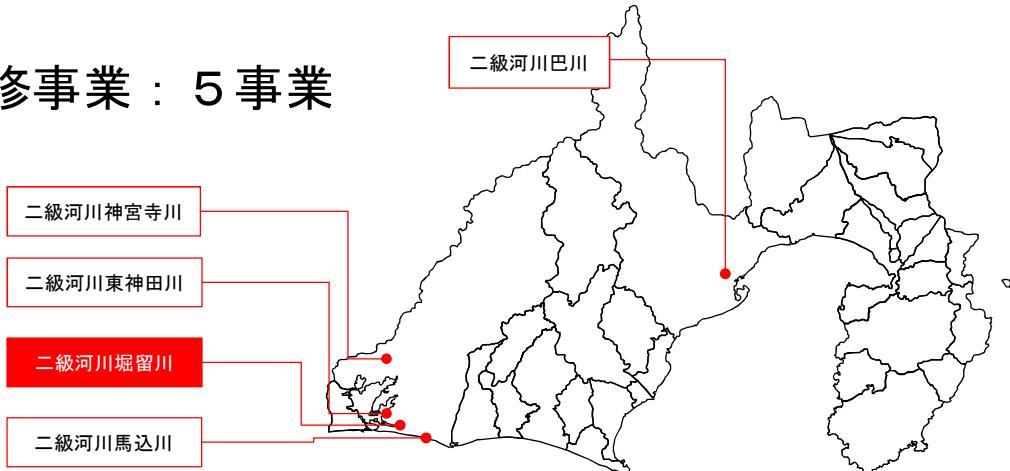
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。
建設費の0.5%/年、評価対象期間:80年(整備期間30年+50年)

総費用

$$\begin{aligned} C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1 + 0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1 + 0.04)^n \\ &= 13,996.4 \text{百万円} + 1,660.2 \text{百万円} \\ &= 15,656.6 \text{百万円} \end{aligned}$$

令和7年度 公共事業再評価

河川改修事業：5事業



番号	事業名	箇所名	代表事業
1	河川改修事業	二級河川神宮寺川	
2	河川改修事業	二級河川堀留川	
3	河川改修事業	二級河川東神田川	
4	河川改修事業	二級河川巴川	◎
5	地震・高潮対策事業	二級河川馬込川	

交通基盤部 河川砂防局 河川海岸整備課

1. 事業箇所位置図



2. 事業概要

詳細位置図

事業目的

概ね10年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることで、同規模洪水に対する床上浸水の発生を防止する。

事業内容

計画期間：平成27年～令和26年
事業内容：施工延長 2,303m
河道改修(築堤、護岸工等) 2,303m
橋梁工 6橋
水門工 1箇所
全体事業費: 178億円

過去の浸水被害状況

発生日	床上 (戸)	床下 (戸)	浸水面積 (ha)
S50.10.7	251	2348	232.4
H25.9.8	0	2	0.4
H26.10.5	0	8	0.2
H27.9.7	0	3	151.2
R1.7.22	0	8	217.1
R4.9.23	5	10	145.9

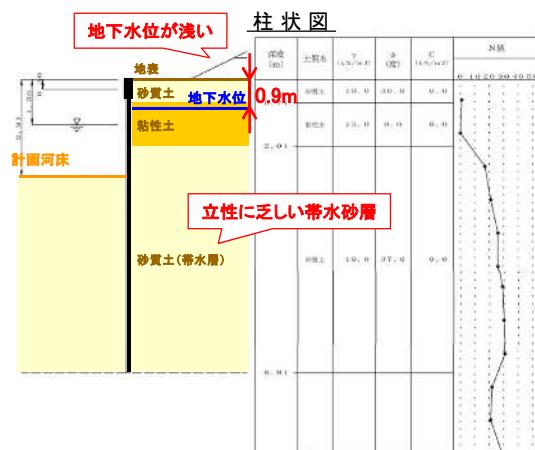
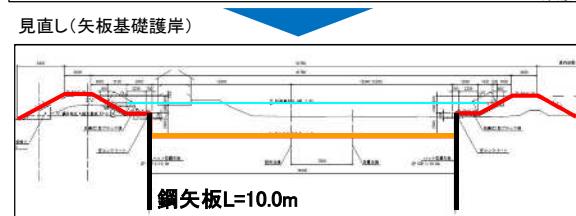
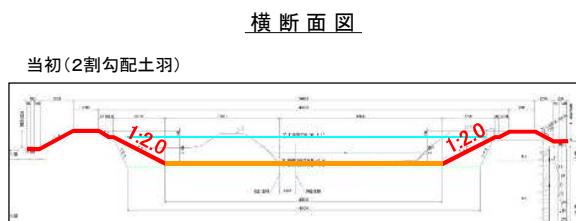
H27.9.7洪水における浸水状況

R1.7.22洪水における浸水状況

横断図等

2. 事業概要

前回からの変更点・理由			
区分	前回(R2)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	H28～R26	H28～R26 (変更なし)	・ 変更なし
②全体事業費	12,300百万円	17,800百万円 (+5,500百万円)	・ 護岸構造の見直し ・ 物価及び労務費の上昇 ・ 残土処分費の増加 ・ 補償費の追加



3. 事業の投資効果（費用便益比）

総便益(B) = 1,100.7 (億円)

➤被害軽減期待額 1,097.7 (億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 3.0 (億円)

総費用(C) = 156.6 (億円)

➤建設費(現在価値化) 140.0 (億円)

➤維持管理費(現在価値化) 16.6 (億円)

※令和6年換算価値

※文献(マニュアル)：「治水経済マニュアル(案)」

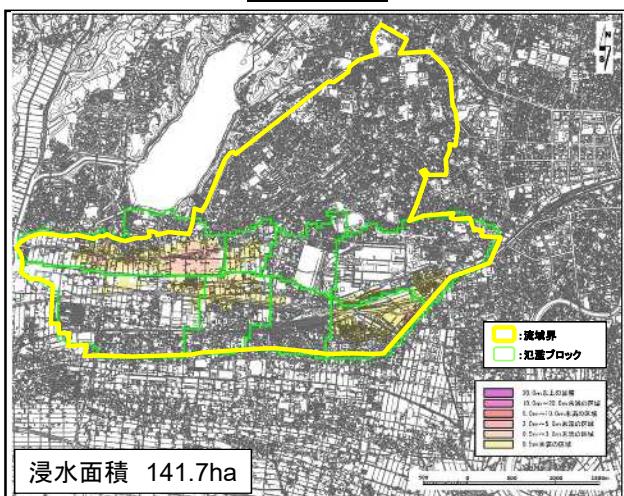
(国土交通省水管理・国土保全局、R6.4)

費用便益比(B/C)= 7.0

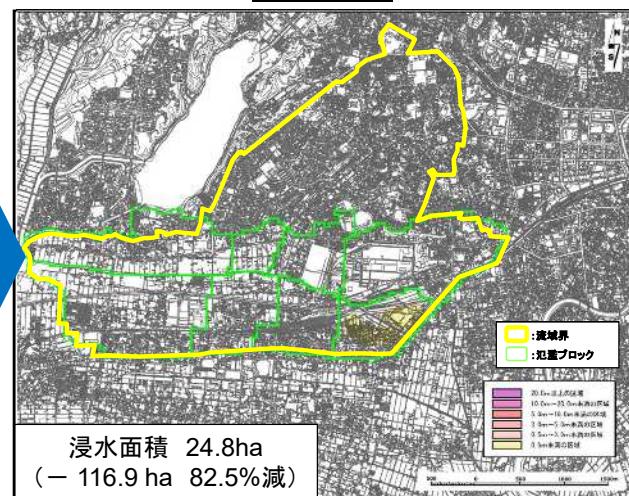
4. 事業の投資効果

【整備目標規模(年超過確率1/10)洪水による氾濫シミュレーション結果】

整備前



整備後



本事業を実施することにより
堀留川流域の浸水常襲地域における床上浸水被害が解消される

5. 事業の進捗状況（令和7年度未見込み）



下流より施工済区間を望む



上流より施工済区間を望む



新設水門



6. 今後の事業の進捗の見込み

- 新川合流部に設置する新設水門について令和元年度より着手し、令和5年度に完成した。
- 「堀留川を考える住民会議」を設けるなど、地元も協力的であり、用地買収に向けた調整等も順調に進んでいる。
- 毎年のように甚大な浸水被害が発生しており、地元の期待度は非常に高く、事業に対し協力的であることから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。

7. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 工事発生土を、近隣の公共事業に利用するなど、引き続き、他事業と連携し、コスト縮減に努める。
- 道路管理者および地元自治会等と調整の上、橋梁の統廃合も検討し、コスト縮減に努める。

8. 対応方針（案）

- 本事業は、堀留川の河道改修と水門新設により、浜松市西部地域の浸水常襲地区の家屋浸水被害を軽減するものである。
- 近年の気候変動に伴う激甚化、頻発化する豪雨災害により、地域住民から早急な治水対策が求められており、事業の投資効果も見込まれている。
- 出前講座や新設水門見学会を開催するなど地元理解を深める活動を行っている。
- 費用対効果も見込まれ、地元の期待も大きく、今後の事業進捗が見込められる。

早期の浸水被害解消のため
事業を継続する

令和7年度 公共事業の再評価に関する関係者等の意見と県の考え方(案)

資料5

事業名: 河川改修事業(広域河川改修事業)
 箇所名: 二級河川堀留川
 照会者: 堀留川流域の住民

担当課: 河川海岸整備課

番号	聴取した意見内容		意見に対する県の考え方
	意見	内容	
1	事業継続を希望	水門の整備に時間がかかり、上流への整備が進んでいないので、今後、事業進捗を速めてほしい。	今後も橋梁架け替えや樋門・樋管の整備など事業費及び工期のかかる工事が多く存在しますが、早期完成を目指して事業を推進します。
2	事業継続を希望	過去に実施した説明会での事業進捗予定より遅延しているので、より一層の事業推進を要望する。	今後も橋梁架け替えや樋門・樋管の整備など事業費及び工期のかかる工事が多く存在しますが、早期完成を目指して事業を推進します。
3	事業継続を希望	過去に実施した説明会での事業進捗を参考にして、用地提供の目途を立てていたが、遅延しているようなので、用地提供予定者の都合も考慮して事業進捗を速めほしい。	今後も橋梁架け替えや樋門・樋管の整備など事業費及び工期のかかる工事が多く存在しますが、早期完成を目指して事業を推進します。
4	事業継続を希望	浸水被害は上流で発生しているため、下流の整備に時間を掛けてないで、早急に上流区間の整備をすすめてほしい。	今後も橋梁架け替えや樋門・樋管の整備など事業費及び工期のかかる工事が多く存在しますが、早期完成を目指して事業を推進します。
5	事業継続を希望	浜松市で調整池や貯留施設も整備しているようだが、そもそも現在の堀留川の川幅が狭いため、河川の拡幅整備を早急に進めてほしい。	浜松市と連携し、早期完成を目指して事業を推進します。
6	事業継続を希望	堀留川の流れはいつも逆流しているので、水門の整備により下流部の流れが良くなり、逆流も制御でき、今後の河道拡幅の効果が発揮されるので、早急に事業を進捗させてほしい。	早期完成を目指して事業を推進します。
7	事業継続を希望	近年の降雨の状況から、さらに浸水被害は大きくなるため、早期完成を要望する。	浜松市と連携し、早期完成を目指して事業を推進します。
8	事業継続を希望	隣接工区の用地買収がほとんど完了しているため、引き続き早急に事業を進めてほしい。	早期完成を目指して事業を推進します。
9	事業継続を希望	橋梁の架け替え工事が進まないようだが、治水対策が最重要なので用地の問題等を浜松市等の関係者も含めて早期解決し、事業の早期完成を要望する。	浜松市等の事業関係者と連携し、早期完成を目指して事業を推進します。

番号	10	令和7年度公共事業再評価調書			担当課名 河川海岸整備課																				
事業名	河川改修事業（浜松飛行場周辺障害防止対策事業）			事業主体	静岡県																				
箇所名	二級河川東神田川			関係市町	浜松市																				
事業採択年度	平成 28 年度		計画期間	平成 28 年度～令和 19 年度																					
用地着手年度	平成 28 年度		工事着手年度	平成 28 年度																					
再評価理由※	再評価実施後5年間が経過した時点で継続中																								
全体事業費	百万円 2,078	投資状況 (百万円)	～R5年度 758	R6年度 95	R7年度見込 95 計 948																				
事業概要	<p>(1) 事業目的 下流区間は概ね50年に1回程度発生する規模の洪水を、上流区間は概ね5年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることで、同規模洪水に対する浸水被害を解消する。</p> <p>(2) 事業内容 施工延長： 1,800 m 河道拡幅工： 1,800 m (築堤、河道掘削、護岸工)</p>																								
【視点1】 事業の必要性	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 東神田川流域は、事業採択時から土地利用に大きな変化は無いものの、上流部の都市化が少しずつ進展しており、出水時の危険度は増加傾向にある。豪雨の発生頻度が増加傾向にある中で、地元からは早急な治水対策が求められている。</p> <p>(2) 事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 7 年度時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>B/C (i=4%)</th> <th>参考:B/C (i=2%)</th> <th>参考:B/C (i=1%)</th> <th>EIRR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.1</td> <td>10.4</td> <td>12.8</td> <td>37.6%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 総便益 (B) 97.8 億円 (被害軽減便益：97.5億円、施設の残存価値：0.3億円) 総費用 (C) 13.7 億円 (建設費：12.3億円、維持管理費：1.4億円) <p>○見込まれる効果（定性的な効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜松基地内の保水機能が低下によって生じる障害の防止・軽減効果 被災可能性に対する不安の低減効果 治水安全度の向上による地価の上昇 <p>(3) 事業の進捗状況 (令和 7 年度見込み)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th>内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>45.6%</td> <td>(948 百万円 / 2,078 百万円)</td> </tr> <tr> <td>事業量</td> <td>河道拡幅工 369 m</td> <td>(369 m / 1,800 m)</td> </tr> <tr> <td>用地取得</td> <td>100.0%</td> <td>(2,357 m² / 2,357 m²)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価 継続が妥当</p>					B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	7.1	10.4	12.8	37.6%	区分	進捗率	内訳	事業費	45.6%	(948 百万円 / 2,078 百万円)	事業量	河道拡幅工 369 m	(369 m / 1,800 m)	用地取得	100.0%	(2,357 m² / 2,357 m²)
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																						
7.1	10.4	12.8	37.6%																						
区分	進捗率	内訳																							
事業費	45.6%	(948 百万円 / 2,078 百万円)																							
事業量	河道拡幅工 369 m	(369 m / 1,800 m)																							
用地取得	100.0%	(2,357 m² / 2,357 m²)																							
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>当現場における軟弱地盤の対応が確立されたこと、用地買収や道路橋の改良が完了していることに加え、地域住民の理解も得られており事業への期待も大きいことから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。</p> <p style="text-align: center;">評価 継続が妥当</p>																								
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	良質な建設発生土砂については、近隣の公共事業に利用することで、コスト縮減に努めていく。																								
対応方針 (案)	<p>(1) 対応方針（案） 本事業を【 継続 】する。</p> <p>(2) 理由 本事業は、河川改修により東神田川流域の浸水被害を軽減するものである。 当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨により、事業の必要性が一層高まっており、さらに事業の投資効果も見込まれ、地元住民の事業への期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。</p>																								

費用便益比算出説明書

二級河川 東神田川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益B	[事業を実施しない場合の被害額] - [事業を実施した場合の被害額] + [施設の残存価値]	9,776百万円
総費用C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	1,370百万円
B / C		7.14

総便益

- 治水事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間68年(残整備期間18年+50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値

評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned}
 B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\
 &= 9,749.0 \text{百万円} + 26.5 \text{百万円} \\
 &= 9,775.5 \text{百万円}
 \end{aligned}$$

※被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

○事業建設費

各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費

各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。

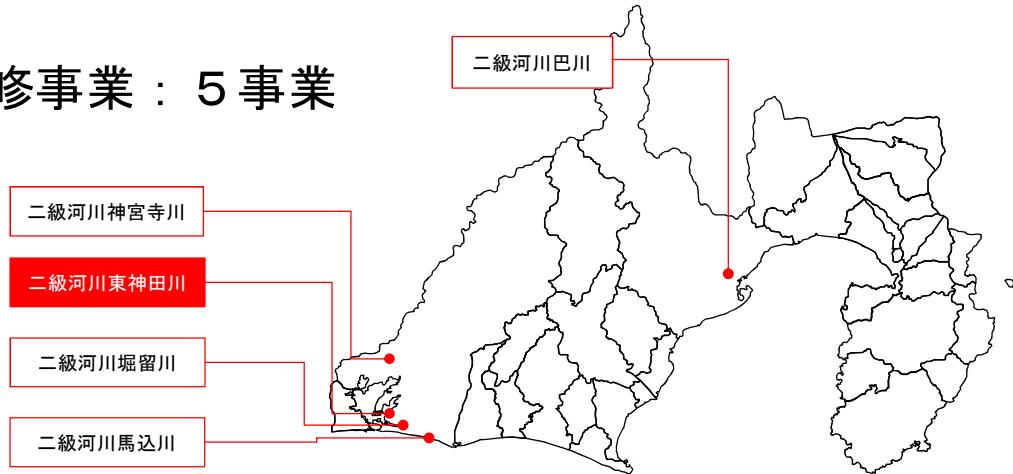
建設費の0.5%/年、評価対象期間:68年(残整備期間18年+50年)

総費用

$$\begin{aligned}
 C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\
 &= 1,225.7 \text{百万円} + 144.2 \text{百万円} \\
 &= 1,369.9 \text{百万円}
 \end{aligned}$$

令和7年度 公共事業再評価

河川改修事業：5事業



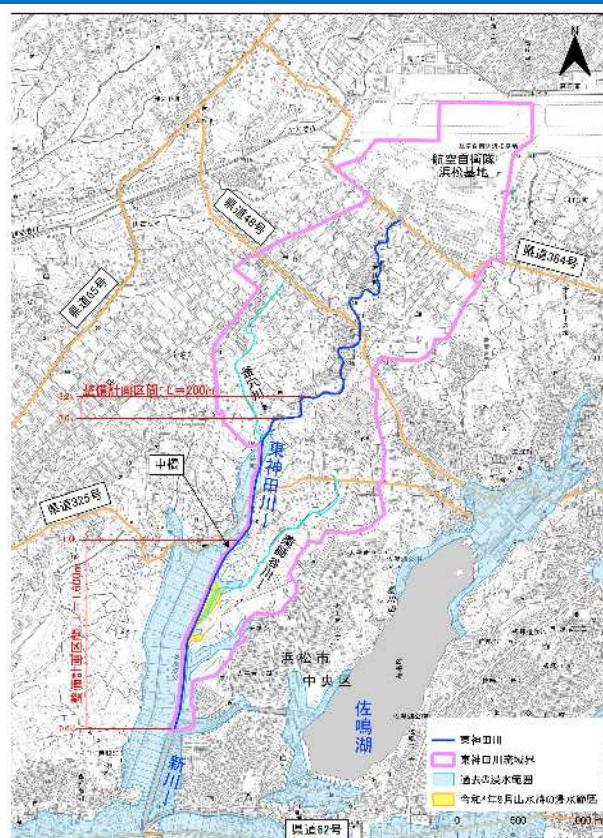
番号	事業名	箇所名	代表事業
1	河川改修事業	二級河川神宮寺川	
2	河川改修事業	二級河川堀留川	
3	河川改修事業	二級河川東神田川	
4	河川改修事業	二級河川巴川	◎
5	地震・高潮対策事業	二級河川馬込川	

交通基盤部 河川砂防局 河川海岸整備課

1. 事業箇所位置図

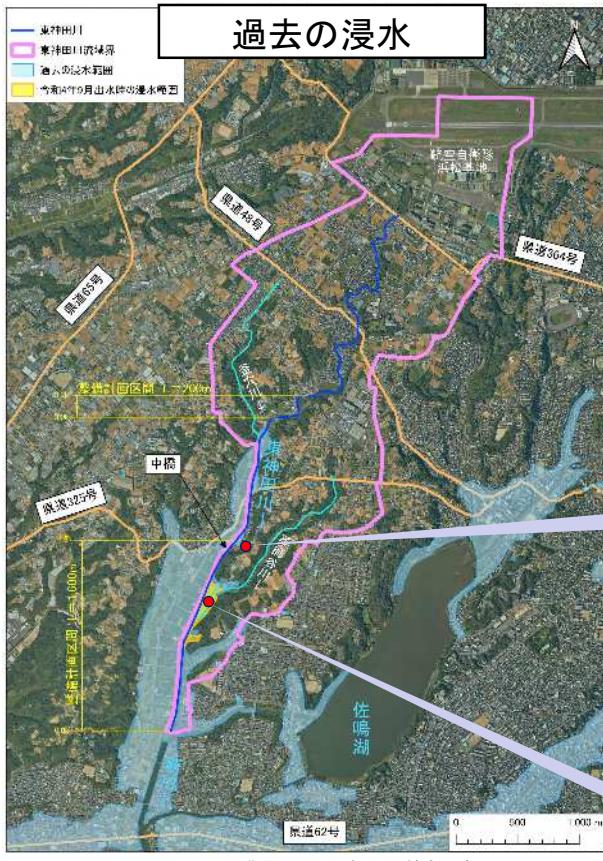


二級河川 東神田川	
流域面積	約 6.0 km ²
幹線流路延長	約 5.6 km
整備区間延長	1.8km (0.0k~1.6k、3.0k~3.2k)
整備目標	中橋下流区間:1/50 中橋上流区間:1/5
整備内容	築堤、引堤、河床掘削



背景図:地理院標準図(電子国土Web)

2. 事業概要



過去の浸水被害状況(新川流域)					
発生日	浸水面積(ha)	床上(戸)	床下(戸)	最大1時間雨量(mm)	最大24時間雨量(mm)
S49.7.7-8	不明	114	1,168	40.0	144.0
S50.10.7-8	不明	251	2,438	72.5	336.0
H2.9.30	不明	不明	不明	55.5	178.0
H26.10.5-6	不明	0	0	53.0	262.0
R4.9.23	167	5	10	47.1	205.0



平成2年9月30日、台風20号による大雨により、東神田川左岸側の農地の浸水および道路の冠水の様子。



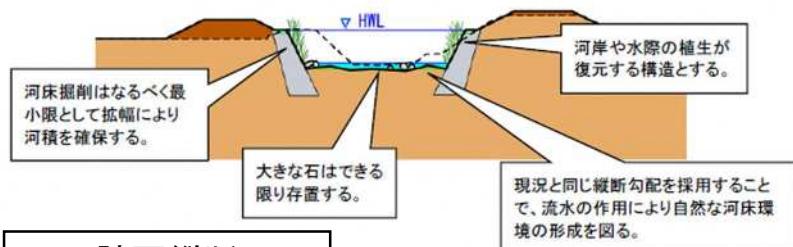
平成26年10月、台風18号による大雨により、東神田川の支川である薬師谷川の水位が上昇した様子。

2. 事業概要

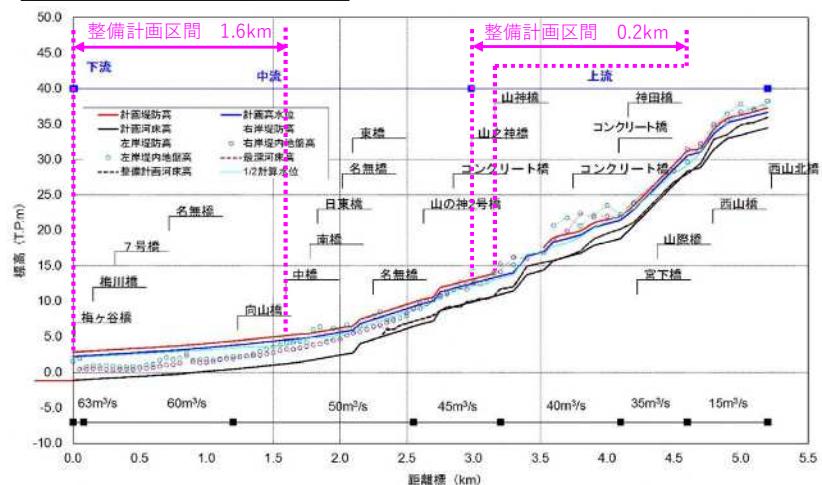
事業目的

- 浸水区域が広域に広がることが想定される中橋下流区間にについては年超過確率1/50規模の降雨による洪水を安全に流下させる。
- それより上流の区間については、年超過確率1/5規模の降雨による洪水を安全に流下させる。

計画横断



計画縦断



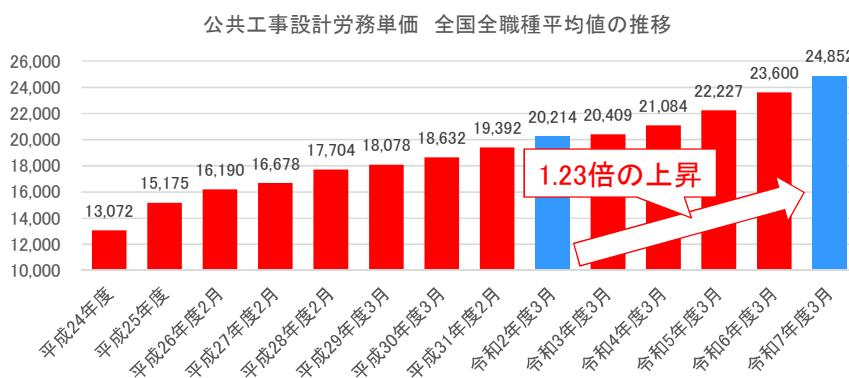
事業内容

- 計画期間
平成28年～令和19年
- 事業内容
施工延長: 1,800m
河道拡幅: 1,800m
- 全体事業費
20.78億円

2. 事業概要

前回からの変更点・理由

区分	前回(R2)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	H28～R13	H28～R19 (+6年)	軟弱地盤による作業効率低下に伴う計画期間の見直し
②全体事業費	1,799百万円	2,078百万円 (+279百万円)	物価及び労務費の上昇



3. 事業の投資効果（費用便益比）

$$\text{総便益}(B) = 97.8 \text{ (億円)}$$

➤被害軽減期待額 97.5 (億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 0.3 (億円)

$$\text{総費用}(C) = 13.7 \text{ (億円)}$$

➤建設費 (現在価値化) 12.3 (億円)

➤維持管理費 (現在価値化) 1.4 (億円)

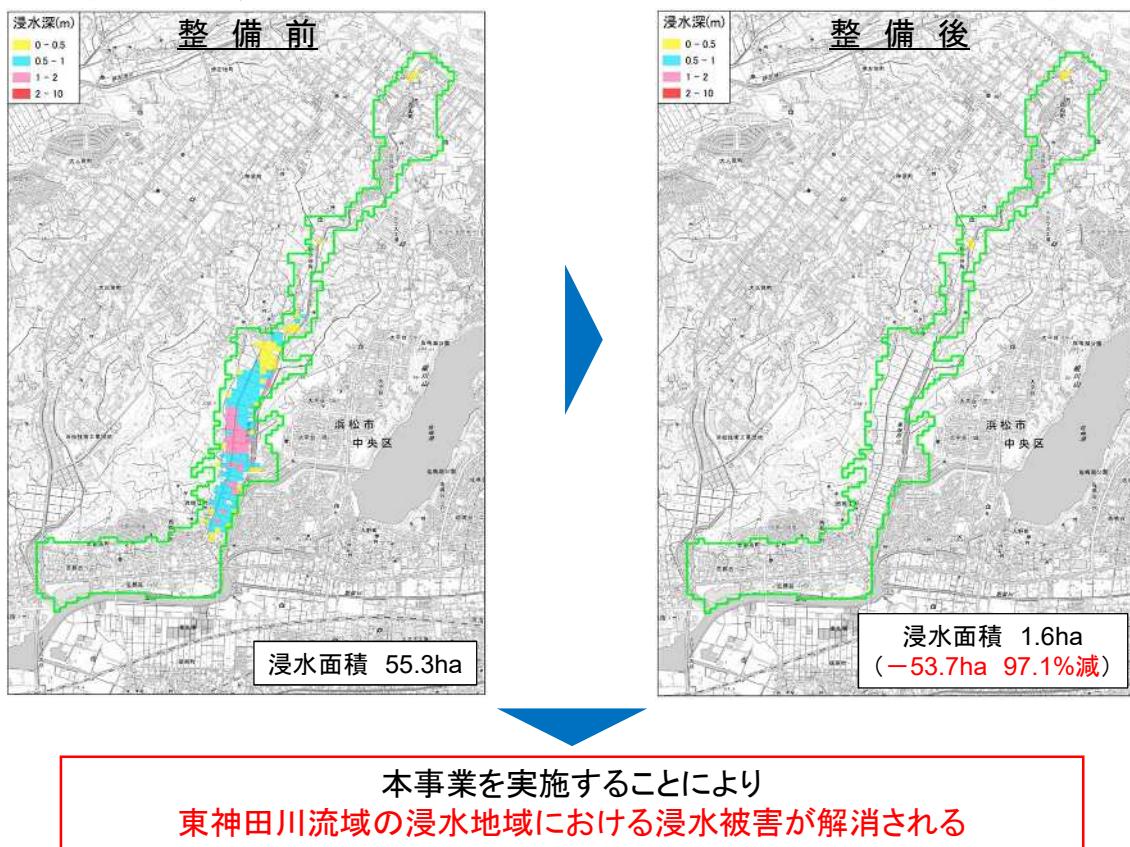
※令和6年換算価値

※文献(マニュアル)：「治水経済マニュアル(案)」
(国土交通省水管理・国土保全局、R6.4)

$$\text{費用便益比}(B/C) = 7.1$$

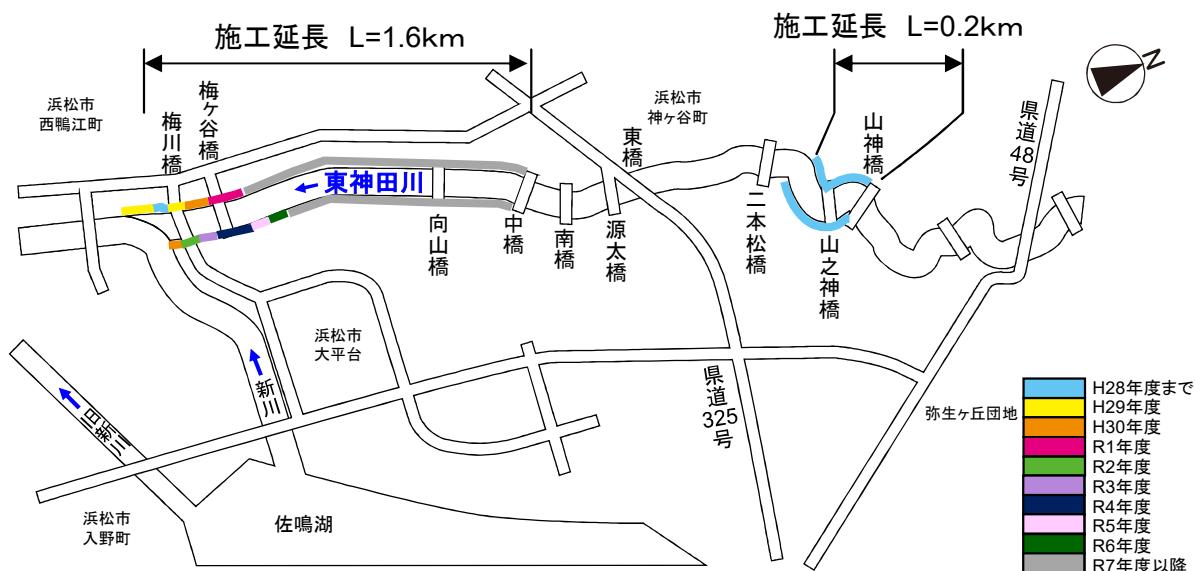
4. 事業の投資効果

【整備目標規模(年超過確率1/50)洪水による氾濫シミュレーション結果】



5. 事業の進捗状況 (令和6年度末時点)

概略平面図 全体工区 施工延長 L=1.8km



【事業の進捗状況】

事業費 41.0% (853百万円／2,078百万円)

事業量 20.5% (369m／1,800m)

薬師谷橋より下流を望む



← 施工状況写真
令和7年3月21日撮影

6 . 今後の事業の進捗の見込み

- 当現場における軟弱地盤の対応が確立されたこと、用地買収や道路橋の改良が完了していることに加え、地域住民の理解も得られており事業への期待も大きいことから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。

7 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 良質な建設発生土砂については、近隣の公共事業に利用することで、コスト縮減に努めていく。

8 . 対応方針（案）

- 近年、激甚化・頻発化する豪雨により、事業の必要性が一層高まっている。
- 地域住民の期待も大きく、今後の事業の進捗が見込める。
- 費用対効果も見込まれ、地域の安全・安心に寄与する。

早期の浸水被害解消のため
事業を継続する

令和7年度 公共事業の再評価に関する関係者等の意見と県の考え方(案)

資料5

事業名： 河川改修事業(浜松飛行場周辺障害防止対策事業)

箇所名： 二級河川東神田川

照会者： 東神田川流域の関係自治会

担当課：河川海岸整備課

番号	聴取した意見内容		意見に対する県の考え方
	意見	内容	
1	事業継続を希望	近年の降雨の状況から、浸水被害はいつ起きてもおかしくないと思うため、早期完了を要望する。	依然として異常気象(台風や大雨など)により、浸水被害が発生していることは十分認識している。浜松市施行事業との連携を一層密にし、早期完成を目指して事業を推進する。
2	事業継続を希望	令和4年度と令和5年度の豪雨の際に近隣の道路が冠水した。河川改修による被害の軽減を要望する。	依然として異常気象(台風や大雨など)により、浸水被害が発生していることは十分認識している。浜松市施行事業との連携を一層密にし、早期完成を目指して事業を推進する。
3	事業継続を希望	東神田川周辺は、元々水はけがよい土地ではない。水路や河川の改修により水がはけるように整備するしかないと思うので、早期完了を要望する。	依然として異常気象(台風や大雨など)により、浸水被害が発生していることは十分認識している。浜松市施行事業との連携を一層密にし、早期完成を目指して事業を推進する。
4	事業継続を希望	低い土地なので、普段は川の流れがほとんどない。河川改修により川の断面を広げる必要性は理解できるため、早期完了を要望する。	依然として異常気象(台風や大雨など)により、浸水被害が発生していることは十分認識している。浜松市施行事業との連携を一層密にし、早期完成を目指して事業を推進する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			

番号	11	令和7年度公共事業再評価調書			担当課名	河川海岸整備課																														
事業名	河川改修事業(広域河川改修事業)			事業主体	静岡県																															
箇所名	二級河川巴川			関係市町	静岡市																															
事業採択年度	平成 21 年度		計画期間	平成 21 年度 ~ 令和 20 年度																																
用地着手年度	平成 21 年度		工事着手年度	平成 22 年度																																
再評価理由※	事業採択(河川整備計画の策定又は変更)後5年間が経過した時点で継続中																																			
全体事業費	百万円 59,123	投資状況 (百万円) 43,371	~R5年度 43,371	R6年度 1,654	R7年度見込 520	計 45,545																														
事業概要	<p>(1)事業目的 ・河川整備計画に基づき、時間当たり69mmの降雨規模(年超過確率1/10規模の降雨)による出水に対して、溢水、破堤などによる家屋被害の発生を防止する。また、平成26年10月洪水と同規模の降雨による洪水に対して、浸水被害の発生を軽減させることを目的とする。</p> <p>(2)事業内容 麻機遊水地 : 73 ha 巴川本川 : 6,600 m 大谷川放水路 : 3,000 m</p>																																			
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・本流域における土地利用の変化は、昭和30年までは21%に過ぎなかった市街地が、沿川の低平地を中心に、交通の発展とともに郊外に向かって開発が進み、令和3年時点で50%が市街地となっており、水害リスクが上昇している。 ・現在までに進めてきた治水対策や流域対策の効果は現れているものの、未だ十分な治水安全度に達しておらず、令和4年度台風第15号により多くの浸水被害が発生した。 ・今後の流域内における市街化の発展を見据え、防災まちづくりの観点から、浸水リスクを軽減し、またはこれ以上増加させない対策を講じていく必要がある。</p> <p>(2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 7 年度時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>B/C (i=4%)</th> <th>参考:B/C (i=2%)</th> <th>参考:B/C (i=1%)</th> <th>EIRR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.7</td> <td>4.1</td> <td>5.2</td> <td>12.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・総便益(B) 2,346.2 億円 (被害軽減便益: 2,319.7億円、施設の残存価値: 26.51億円) ・総費用(C) 877.6 億円 (建設費: 771.54億円、維持管理費: 106.08億円)</p> <p>○見込まれる効果(定性的な効果) ・被災可能性に対する不安の低減効果 ・治水安全度の向上による地価の上昇 ・公共サービスの停止等による波及被害の抑止効果</p> <p>(3)事業の進捗状況 (令和 7 年度見込み)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th colspan="2">内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>77.0%</td> <td colspan="2">(45,545 百万円 / 59,123 百万円)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業量</td> <td>麻機遊水地</td> <td>100.0%</td> <td>(73 ha / 73 ha)</td> </tr> <tr> <td>巴川本川</td> <td>10.6%</td> <td>(700 m / 6,600 m)</td> </tr> <tr> <td>大谷川放水路</td> <td>100.0%</td> <td>(3,000 m / 3,000 m)</td> </tr> <tr> <td>用地取得</td> <td>100.0%</td> <td colspan="2">(35 ha / 35 ha)</td> </tr> </tbody> </table>						B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	2.7	4.1	5.2	12.2%	区分	進捗率	内訳		事業費	77.0%	(45,545 百万円 / 59,123 百万円)		事業量	麻機遊水地	100.0%	(73 ha / 73 ha)	巴川本川	10.6%	(700 m / 6,600 m)	大谷川放水路	100.0%	(3,000 m / 3,000 m)	用地取得	100.0%	(35 ha / 35 ha)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																	
2.7	4.1	5.2	12.2%																																	
区分	進捗率	内訳																																		
事業費	77.0%	(45,545 百万円 / 59,123 百万円)																																		
事業量	麻機遊水地	100.0%	(73 ha / 73 ha)																																	
	巴川本川	10.6%	(700 m / 6,600 m)																																	
	大谷川放水路	100.0%	(3,000 m / 3,000 m)																																	
用地取得	100.0%	(35 ha / 35 ha)																																		
	評価 継続が妥当																																			
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>・麻機遊水地は、令和7年度に整備が完了する見込みである。 ・巴川本川は、河口から港橋までの約700mの河床掘削が完了しており、引き続き、掘削に際して支障となる橋梁の架替を実施していく。橋梁管理者との調整も順調であり、地域住民の期待も大きいことから、今後も順調な進捗が見込める。</p>																																			
	評価 継続が妥当																																			
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>・河道掘削に伴う橋梁の架替について、施工時において仮橋を設置せず、周辺の橋梁へ迂回させることについての検討や、橋梁の統廃合の可能性について、道路管理者や地元関係者等と協議を行う。</p>																																			
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を 【 継続 】 する。</p> <p>(2)理由 本事業は、遊水地整備及び河川改修及び放水路整備等により巴川流域の浸水被害を軽減するものである。 当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨により、事業の必要性が一層高まっており、さらに事業の投資効果も見込まれ、地元住民の事業への期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。</p>																																			

費用便益比算出説明書

二級河川 巴川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益 B	[事業を実施しない場合の被害額] - [事業を実施した場合の被害額] + [施設の残存価値]	2,346百万円
総費用 C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	878百万円
B / C		2.67

総便益

○治水事業の有無による被害額の差分

年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間80年(整備期間30年+50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値

評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned} B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1 + 0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1 + 0.04)^n \\ &= 2,319.70\text{億円} + 26.51\text{億円} \\ &= 2,346.21\text{億円} \end{aligned}$$

※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

○事業建設費

各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費

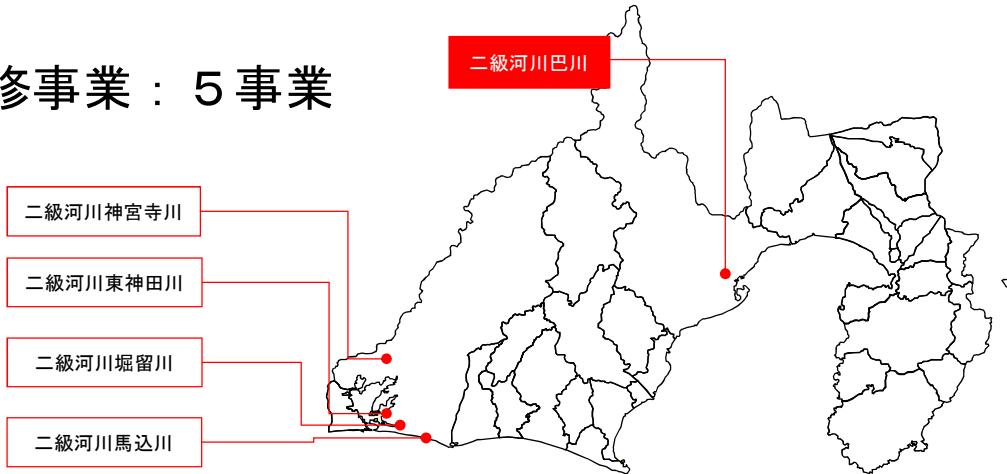
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。
建設費の0.5%/年、評価対象期間:80年(整備期間30年+50年)

総費用

$$\begin{aligned} C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1 + 0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1 + 0.04)^n \\ &= 771.54\text{億円} + 106.08\text{億円} \\ &= 877.62\text{億円} \end{aligned}$$

令和7年度 公共事業再評価

河川改修事業：5事業



番号	事業名	箇所名	代表事業
1	河川改修事業	二級河川神宮寺川	
2	河川改修事業	二級河川堀留川	
3	河川改修事業	二級河川東神田川	
4	河川改修事業	二級河川巴川	◎
5	地震・高潮対策事業	二級河川馬込川	

交通基盤部 河川砂防局 河川海岸整備課

1. 事業箇所位置図



二級河川巴川

流域面積 約104.8km²

幹線流路延長 約18.0km



2. 事業概要

詳細位置図

過去の浸水被害状況

発生日	床上(戸)	床下(戸)	浸水面積(ha)
S49.7	11,981	14,143	2,584
H15.7	319	487	159
H16.6	148	235	47
H26.10	610	933	223
R1.10	15	7	7
R4.9	3,720	1,015	778

*S49.7(七夕豪雨)による
浸水実績図

事業目的

時間当たり69mmの降雨規模(年超過確率1/10規模の降雨)による出水に対して、溢水、破堤などによる家屋被害の発生を防止とともに、平成26年10月洪水と同規模の降雨による洪水に対して、浸水被害の発生を軽減させることを目的とする。

事業内容

- ・計画期間 平成21年～令和20年
- ・事業内容

麻機遊水地	: 第1工区整備 22ha
	第2工区整備 51ha
	】 73ha
- ・巴川本川 : 掘削 6,600m
- ・大谷川放水路 : 護床工 3,000m
- ・全体事業費 591億円

横断図等

巴川本川の河道改修にあたっては、干涸の保全等、水生生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に配慮する。

2.0K付近

水際環境を尊重

河床は現状の形状をスライドダウンし、
水生生物の生息環境に配慮する

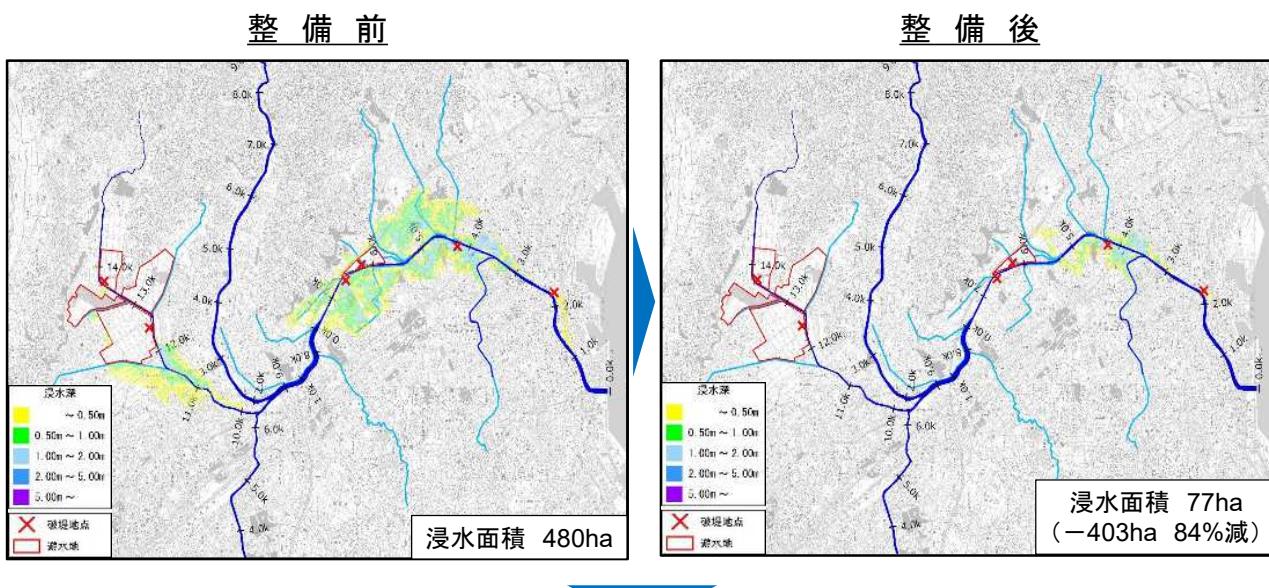
希望平均水深0.86m

S49.7 (七夕豪雨)

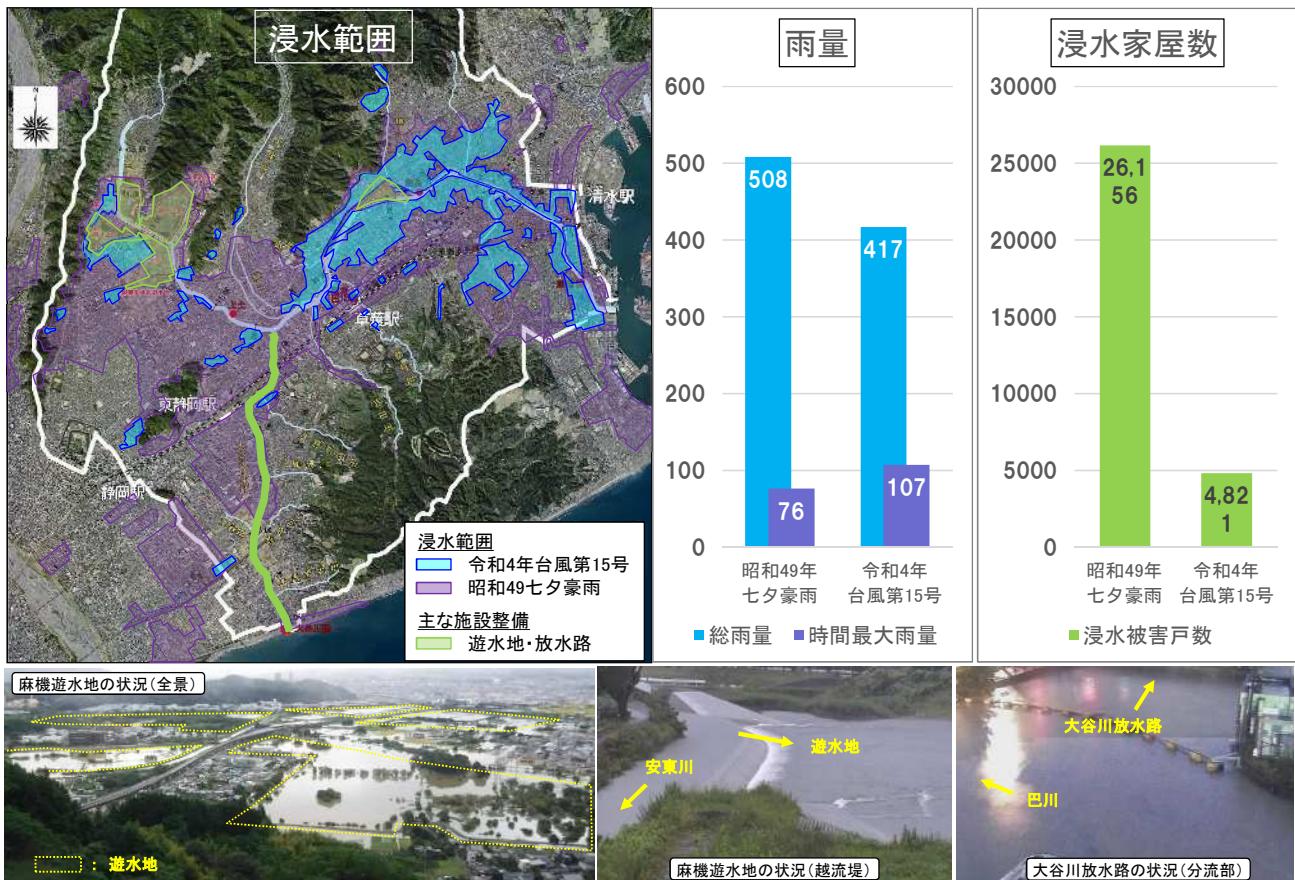
R4.9 (台風15号)

3. 事業の必要性（事業の効果）

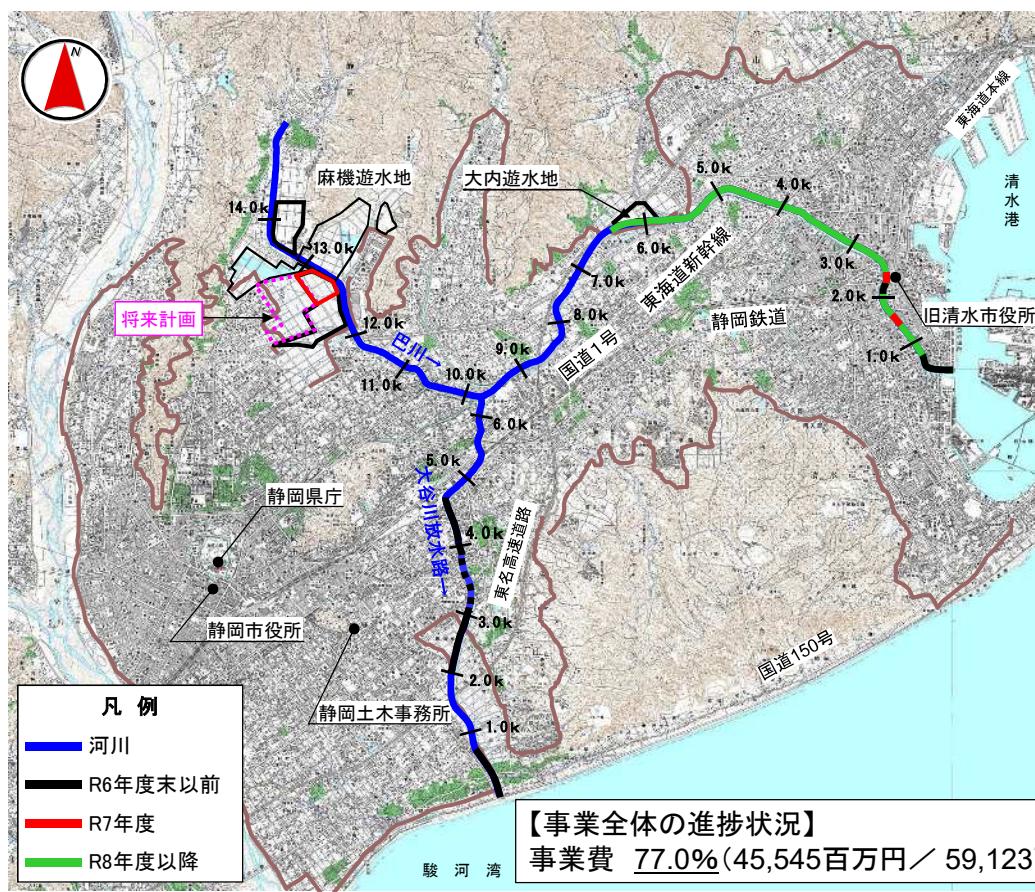
【整備目標規模(年超過確率1/10)洪水による氾濫シミュレーション結果】



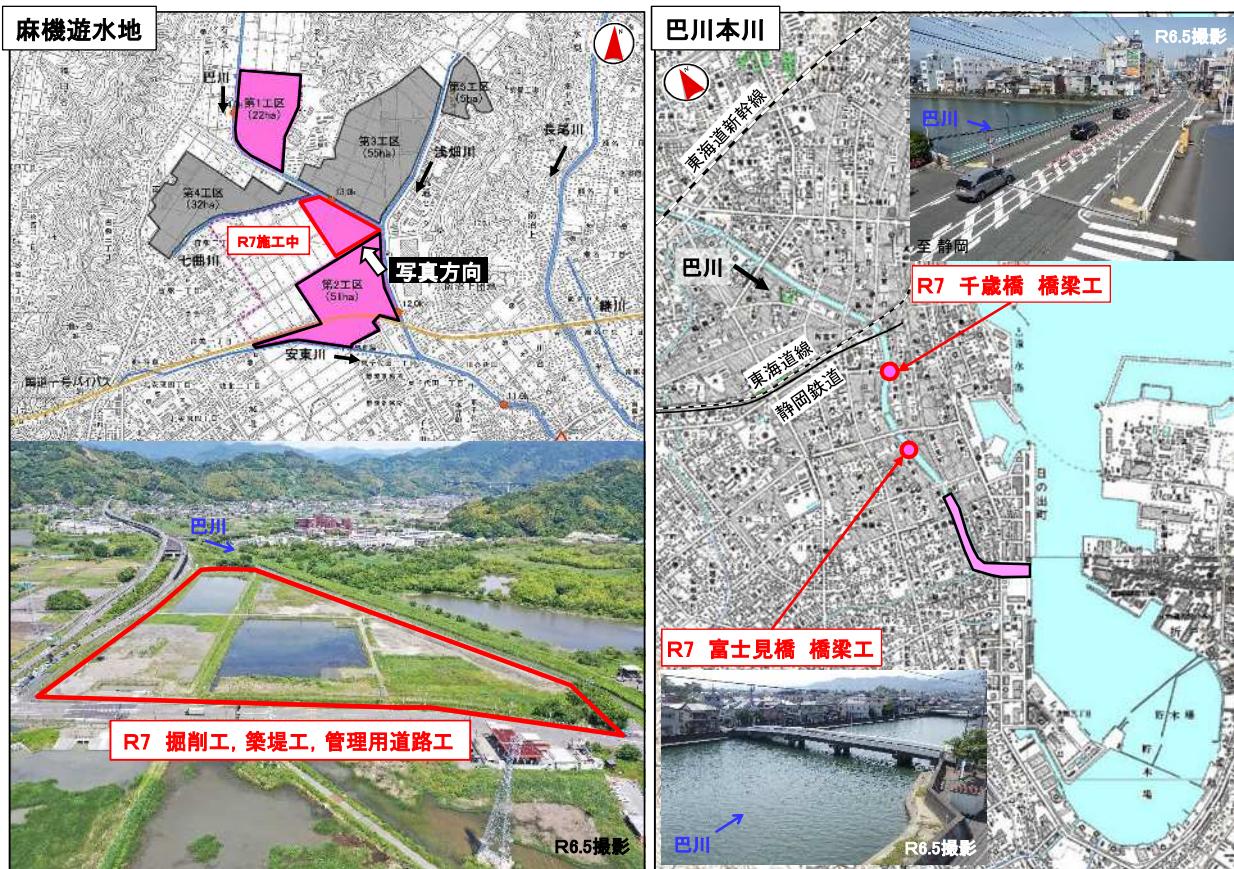
3. 事業の必要性（事業の効果）



4. 事業の進捗状況（令和7年度末見込み）



4. 事業の進捗状況（令和7年度未見込み）



5. 前回からの変更点・理由

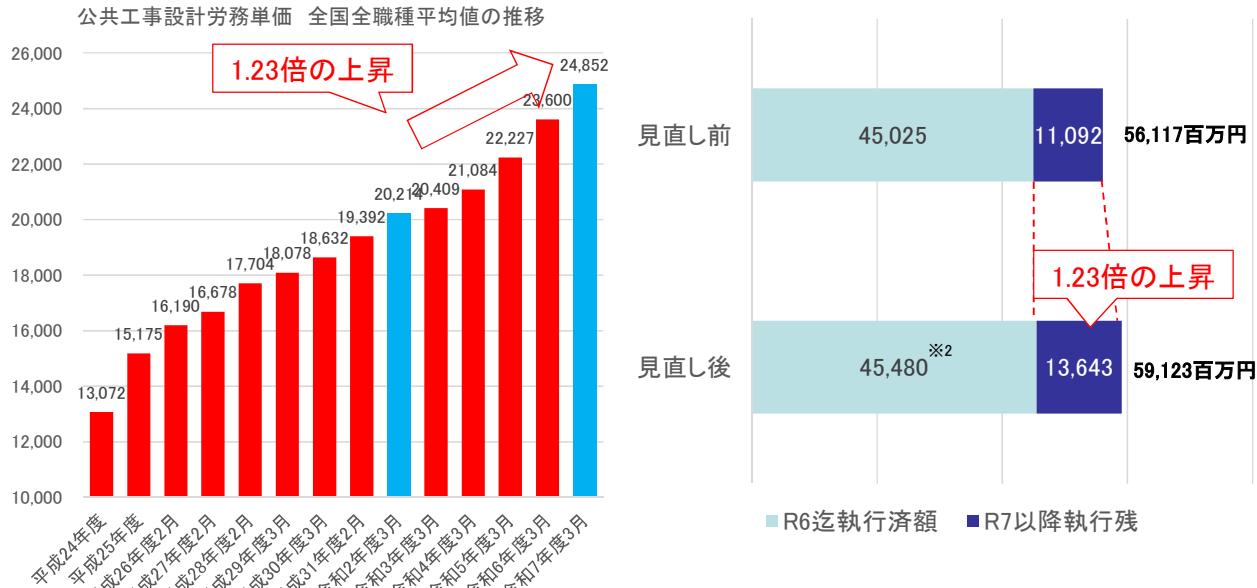
前回からの変更点・理由			
区分	前回(R3)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	H21～R20	H21～R20 (±0年)	・なし
②全体事業費	56,117百万円	59,123百万円 (+3,006百万円)	・物価及び労務費の上昇

項目	前回	今回	増減
物価及び労務費の上昇	—	3,006	3,006

5. 前回からの変更点・理由

項目	前回	今回	増減
物価及び労務費の上昇	—	3,006	3,006

前回評価時から物価及び労務単価が上昇したことに伴い、R7以降の残事業費の見直しを行う。



※1 前回評価時の評価基準年度はR2年度

※2 前回評価時(R2)からR6までの物価及び労務費の上昇を含む

6. 事業の投資効果（費用便益比）

$$\text{総便益}(B) = 2,346.21(\text{億円})$$

➤被害軽減期待額 2,319.70(億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 26.51 (億円)

$$\text{総費用}(C) = 877.62(\text{億円})$$

➤建設費(現在価値化) 771.54(億円)

➤維持管理費(現在価値化) 106.08(億円)

※令和6年換算価値

※文献(マニュアル)：「治水経済マニュアル(案)」
(国土交通省水管理・国土保全局、R6.4)

$$\text{費用便益比}(B/C) = 2.7$$

7 . 今後の事業の進捗の見込み

- 麻機遊水地は、令和7年度に整備が完了する見込みである。
- 巴川本川は、河口から港橋までの約700mの河床掘削が完了しており、引き続き、掘削に際して支障となる橋梁の架替を実施していく。橋梁管理者との調整も順調であり、地域住民の期待も大きいことから、今後も順調な進捗が見込める。

8 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 河道掘削に伴う橋梁の架替について、施工時において仮橋を設置せず、周辺の橋梁へ迂回させることについての検討や、橋梁の統廃合の可能性について、道路管理者や地元関係者等と協議を行う。

9 . 対応方針（案）

- 近年においても浸水被害が発生しており、浸水被害解消の要望が強く、当該事業に対する期待度は非常に強い。
- 巴川は、静岡市の葵区及び清水区の市街地を貫流する河川であり、事業実施による治水効果は大きい。
- 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められる。

早期の浸水被害解消のため
事業を継続する

令和7年度 公共事業の再評価に関する関係者等の意見と県の考え方(案)

資料5

事業名: 河川改修事業(広域河川改修事業)
箇所名: 二級河川 巴川
照会者: 巴川流域 自治会関係者・住民

担当課: 河川海岸整備課

番号	聴取した意見内容		意見に対する県の考え方
	意見	内容	
1	事業継続を要望	七夕豪雨や近年の台風による自然災害を考えると、付近の町内がどのようなことになるか、考えるだけでも恐ろしい。	引き続き、市と連携して巴川流域の総合治水対策を実施し、安全安心な地域づくりを進めてまいります。
2	事業継続を要望	麻機遊水地第2工区の完成を待ち望んでいる。令和4年台風15号でも地域で浸水があり、早期に状況が改善することを期待している。また、通学路に隣接する場所など、定期的に草刈りなどをお願いする。	今年度中の2-1工区の完成に向けて事業を進めていきます。また、除草等の河川の維持管理についても適正に行っていきます。
3	事業継続を要望	当地域は巴川の支川が合流する地域となっており、河川の勾配が緩いこともあって水が溜まりやすい。令和4年台風15号でも浸水被害を受けており、引き続き治水対策を要望する。	引き続き、市と連携して巴川流域の総合治水対策を実施し、安全安心な地域づくりを進めてまいります。
4	事業継続を要望	この地域で子どもや孫たちが安心して住み続けられるよう、しっかりと対策をしてほしい。	引き続き、巴川流域の治水対策を実施し、安全安心な地域づくりを進めてまいります。
5	事業継続を要望	河川改修事業を継続して巴川の洪水リスクを低減してほしい。巴川の治水事業は大切であることから、地元としても毎年要望活動を行っている。	引き続き、地域の御意見を伺いながら総合治水対策を進めてまいります。
6	事業継続を要望	私たちの地域では麻機遊水地の完成が第一と考えている。遊水地が完成して初めて、大谷川放水路としても完成だと考えている。	今年度中の2-1工区の完成に向けて事業を進めていきます。また、2-2工区の着手に向けて検討してまいります。
7	事業継続を要望	高さの足りていない橋を早く架け替えてほしい。令和4年台風15号では橋に流木が引っ掛かり付近が浸水した。工事の進捗状況について、地元に周知しながらやってほしい。	千歳橋、富士見橋の河川改修に伴う架け替えについて、早期完了に向けて事業を進めてまいります。また、事業の進捗状況については、静岡土木事務所のホームページなどで公表しています。
8	事業継続を要望	最近は雨の降り方がひどいため、県の工事は早くやってほしい。また、定期的に工事の進捗について教えてほしい。	引き続き、市と連携して巴川流域の総合治水対策を実施し、安全安心な地域づくりを進めてまいります。また、事業の進捗状況については、静岡土木事務所のホームページなどで公表しています。
9	事業継続を要望	これまで整備してきた遊水地のように、地域の魅力や憩いの場になるような整備をしてほしい。	麻機遊水地保全活用推進協議会等と協力し、環境・景観対策についても進めてまいります。

令和7年度公共事業再評価調書

担当課名

河川海岸整備課

番号	12	令和7年度公共事業再評価調書																									
事業名	地震・高潮対策事業			事業主体	静岡県																						
箇所名	にきゅうかせんまごめがわ 二級河川馬込川			関係市町	浜松市																						
事業採択年度	令和 1 年度		計画期間	令和1年度～令和9年度																							
用地着手年度	令和 一 年度		工事着手年度	令和 1 年度																							
再評価理由※	社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業																										
全体事業費	百万円 9,700	投資状況 (百万円)	～R5年度 2,920	R6年度 3,985	R7年度見込 286	計 7,191																					
事業概要	<p>(1) 事業目的 二級河川馬込川の津波対策により、川を遡上する津波による浸水被害を減らし、地域の安全性を向上させる。</p> <p>(2) 事業内容 二級河川馬込川の河口に津波遡上を防ぐ水門（高さTP+8.0m・幅90m）を整備するとともに、すでに整備済の防潮堤から水門までの間をつなぐ河川堤防（左岸230m右岸80m）を整備する。</p>																										
【視点1】	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災を受け、H25から浜松市沿岸域で津波対策としての防潮堤整備が始まり、遠州灘に注ぐ馬込川についてもH31に水門整備により実施することが決定した。 防潮堤の整備はR2.3月に完了し、浜松市沿岸域17.5kmのうち馬込川河口部の400mを残すのみとなっており、地域の安全確保のために早急な整備完了が求められている。 背後地には浜松市旧南区役所、江之島高校、江南中学、特別支援学校等が存在し、想定される津波が発生した場合の被害は甚大である。 馬込川左岸において浜松市によるビーチコートの整備が進められるなど、水門整備とともに隣接する中田島砂丘などの観光資源を含めた沿岸部の利活用促進に向けて地域の期待が高まっている。 <p>(2) 事業の投資効果</p> <p>○費用便益分析結果 (令和 7 年度時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>B/C (i=4%)</th> <th>参考:B/C (i=2%)</th> <th>参考:B/C (i=1%)</th> <th>EIRR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5.7</td> <td>5.4</td> <td>5.1</td> <td>209.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 総便益 (B) 603.5 億円 (被害軽減便益 : 603.5億円) ・ 総費用 (C) 105.7 億円 (建設費 : 97.6億円、維持管理費 : 8.1億円)</p> <p>○見込まれる効果 (定性的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災可能性に対する地域住民の不安低減と居住の継続や新たな移住者が期待される 安全度の向上による地価の上昇や土地の利活用の増加 <p>(3) 事業の進捗状況 (令和 7 年度見込み)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th>内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>74.1%</td> <td>(7,191 百万円 / 9,700 百万円)</td> </tr> <tr> <td>事業量</td> <td>水門工</td> <td>0.0% (0 基 / 1 基)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>用地取得</td> <td>- (- / -)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>継続が妥当</th> </tr> </thead> </table>					B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	5.7	5.4	5.1	209.7%	区分	進捗率	内訳	事業費	74.1%	(7,191 百万円 / 9,700 百万円)	事業量	水門工	0.0% (0 基 / 1 基)		用地取得	- (- / -)	評価	継続が妥当
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																								
5.7	5.4	5.1	209.7%																								
区分	進捗率	内訳																									
事業費	74.1%	(7,191 百万円 / 9,700 百万円)																									
事業量	水門工	0.0% (0 基 / 1 基)																									
	用地取得	- (- / -)																									
評価	継続が妥当																										
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> 本体部の工事が概ね完了し、津波遡上を防止する扉体も工場から順次搬入中。 令和6年度からは横堤工や管理橋工などの附帯工事にも着手している。 令和7年度以降は水門稼働に向け、電気・遠方監視制御設備などの設置を行う予定。 現在、工事は順調に進捗しており、令和9年度の供用開始を見込んでいる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>継続が妥当</th> </tr> </thead> </table>					評価	継続が妥当																				
評価	継続が妥当																										
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 築堤に用いる土砂の確保について、公共事業での発生土砂を積極的な流用や、横堤工における堤防被覆において、コンクリート2次製品を活用する事でコスト縮減に努めていく。 																										
対応方針 (案)	<p>(1) 対応方針 (案) 本事業を 【 継続 】 する。</p> <p>(2) 理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜松市沿岸域の防潮堤整備は17.5kmがR2.3月に完了し、水門を含む馬込川河口部400mを残すのみとなっており、背後地には旧区役所や学校が立地し、津波発生時の被害が甚大であることから、地域から早急な整備完了を求められている。 また、沿岸部の安全確保に合わせて、隣接する中田島砂丘などの観光資源を含めた沿岸部の利活用促進に向けて地域の期待が高まっていることから、事業を継続する。 																										

費用便益比算出説明書

二級河川 馬込川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益B	[治水事業を実施しない場合の被害額] - [治水事業を実施した場合の被害額]	60,347百万円
総費用C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	10,574百万円
B / C		5.7

総便益

○治水事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間59年(整備期間9年+50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned} B &= \text{津波発生時点における被害額に対して、施設整備後の被害額を引いた「被害軽減額」} \\ &= 112,080 \text{ 百万円} - 51,733 \text{ 百万円} \\ &= 60,347 \text{ 百万円} \end{aligned}$$

※ 被害額は津波による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 津波対策水門における便益の算出については、治水経済調査マニュアル記載の計上方法では算出できないため、津波発生時点における被害額に対して、施設整備後の被害額を引いた「被害軽減額」を総便益として算出する。

総費用

○事業建設費
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

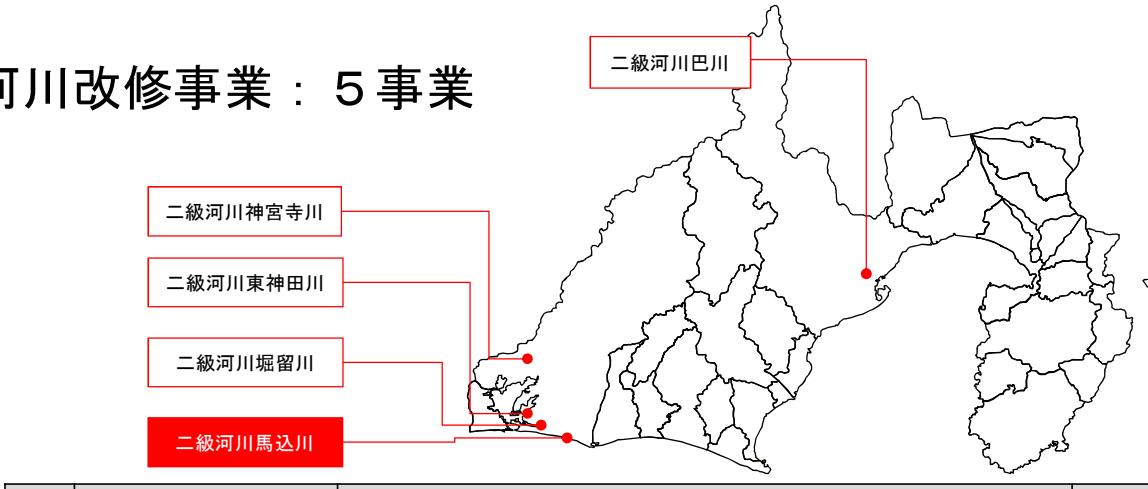
○評価期間内に必要な維持管理費
近傍の同規模の水門の長寿命化で設定
評価対象期間:50年

総費用

$$\begin{aligned} C &= \sum \text{各年事業建設費} / (1 + 0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1 + 0.04)^n \\ &= 9,760.9 \text{ 百万円} + 812.7 \text{ 百万円} \\ &= 10,573.6 \text{ 百万円} \end{aligned}$$

令和7年度 公共事業再評価

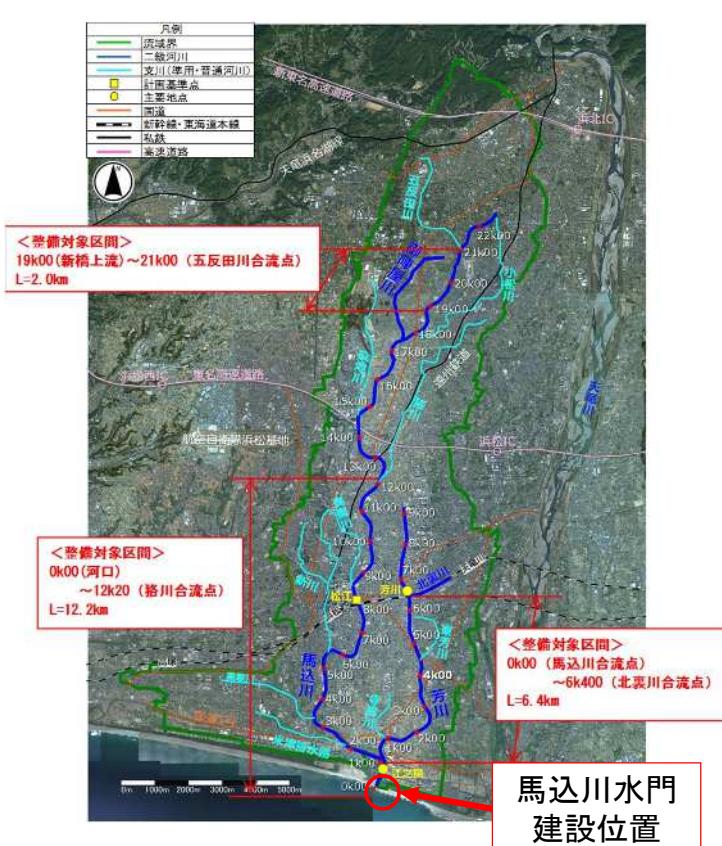
河川改修事業：5事業



番号	事業名	箇所名	代表事業
1	河川改修事業	二級河川神宮寺川	
2	河川改修事業	二級河川堀留川	
3	河川改修事業	二級河川東神田川	
4	河川改修事業	二級河川巴川	◎
5	地震・高潮対策事業	二級河川馬込川	

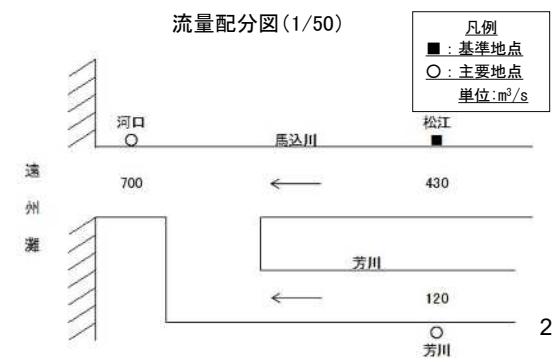
交通基盤部 河川砂防局 河川海岸整備課

1. 事業箇所位置図

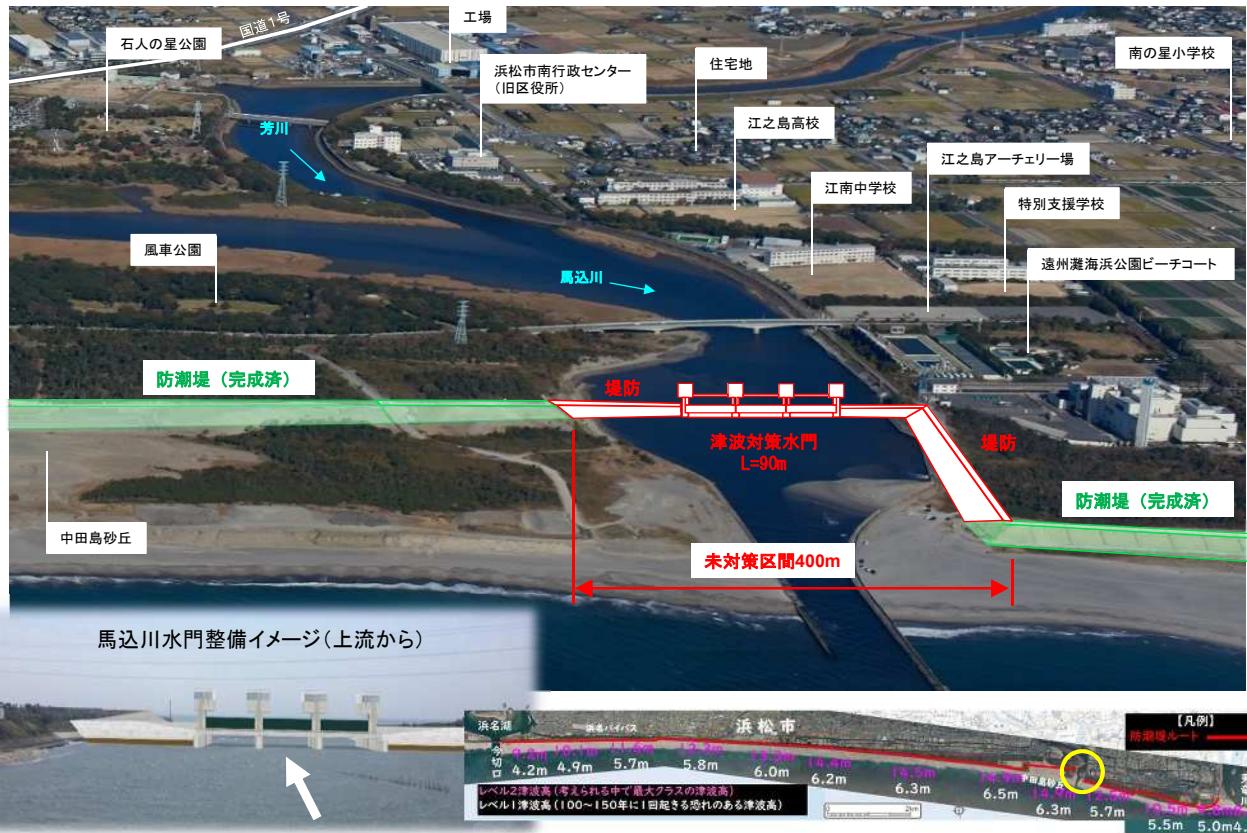


河川整備計画の主要な整備箇所

河川名	延長	整備内容
馬込川	12.2km(0k00～12k20) 2.0km(19k00～21k00)	河床掘削 護岸整備
芳川	6.4km(0k30～6k40)	河床掘削 護岸整備
馬込川	河口	水門設置



1. 事業箇所位置図



2. 事業概要

<事業目的>

南海トラフ巨大地震発生で想定されるレベル2津波から、背後地の浸水被害を減災し、住民の生命・財産を守ることを目的とする。

事業期間	令和元年度～令和9年度		
津波対策内容	水門1基(幅30m×3門)、横堤186m、河川堤防214m		
全体事業費	97億円		
投資状況	71.91億円(74.1%)		

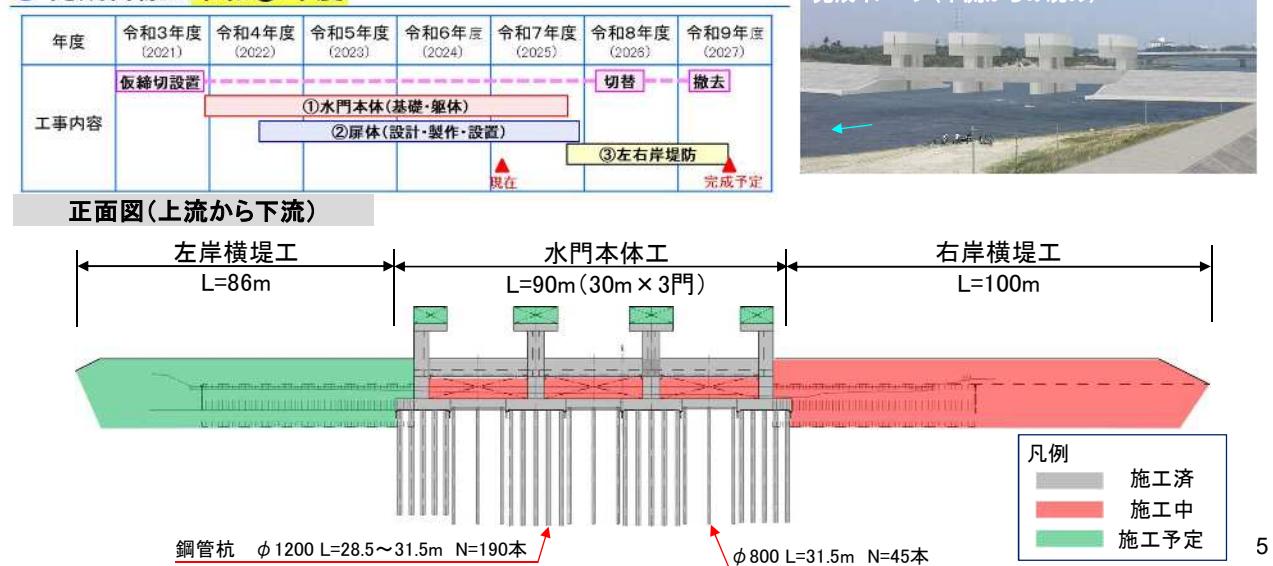
前回からの変更点・理由

	前回	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	R1～R9	R1～R9 (変更なし)	—
②全体事業費	8,400百万円	9,700百万円 (+1,300百万円)	物価及び労務費の上昇

2. 事業概要



○ 完成目標は令和9年度



5

3. 事業の投資効果（費用便益比）

$$\text{総便益}(B) = 603.5(\text{億円})$$

➤被害軽減期待額 105.4(億円)

※津波による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 — (億円)

$$\text{総費用}(C) = 105.7(\text{億円})$$

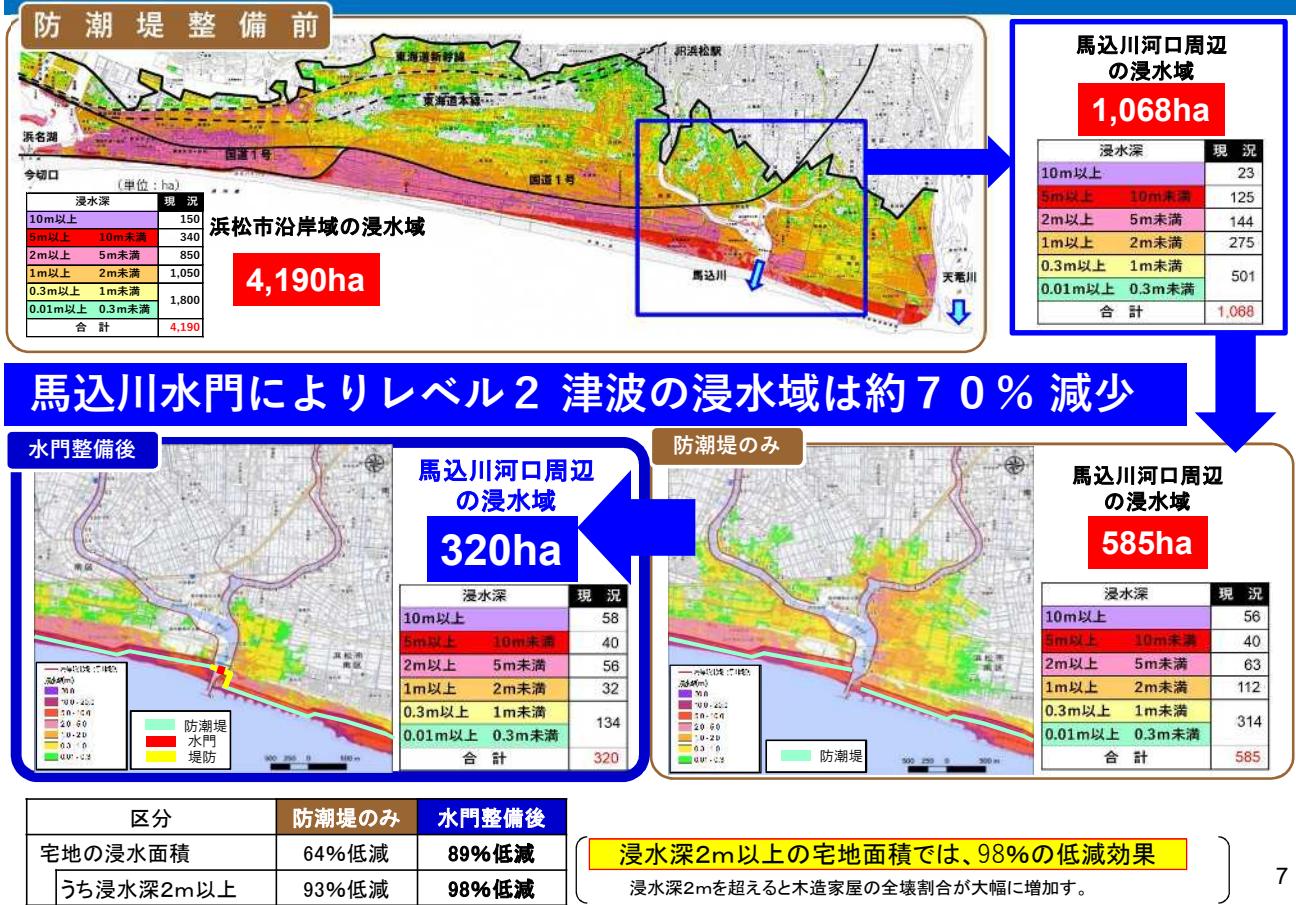
➤建設費(現在価値化) 97.6(億円)

➤維持管理費(現在価値化) 8.1(億円)

$$\text{費用便益比}(B/C) = 5.7$$

6

3. 事業の投資効果



4. 事業の進捗状況（令和7年度末見込み）



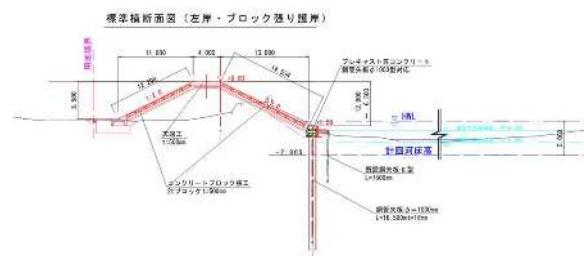
5. 今後の事業の進捗の見込み

- 本体部の工事が概ね完了し、津波遡上を防止する扉体も工場から順次現場に搬入中。
- 令和6年度からは、横堤工や管理橋工などの附帯工事にも着手している。
- 令和7年度以降は水門稼働に向け、電気・遠方監視制御設備などの設置を行う予定。
- 現在、工事は順調に進捗しており、令和9年度の供用開始を見込んでいる。



6. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 築堤に用いる土砂の確保として他の公共事業で発生した土砂の積極的な受け入れや、横堤工における堤防被覆にコンクリート2次製品を活用することにより、一層コスト縮減に努めていく。



9

7. 対応方針（案）

- 費用対効果も認められ、地元住民の津波対策水門工事に対する期待は大きく、早期完成が望まれている。
- 馬込川河口の津波対策が完了することで、浜松市沿岸域全域での津波減災効果が発揮される。
- 令和9年度の完成に向けて、計画的に工事が進捗しており、工事に対する地域の理解もあり、今後の確実な進捗も見込める。

早期の浸水被害解消のため

事業を継続する

令和7年度 公共事業の再評価に関する関係者等の意見と県の考え方(案)

資料5

事業名： 地震・高潮対策事業

箇所名： 馬込川

照会者： 馬込川水門建設事業の関係者(地元自治会、教育施設、市民団体等)

担当課：河川海岸整備課

番号	聴取した意見内容		意見に対する県の考え方
	意見	内容	
1	事業継続を要望	近年、日本各地で大きな地震が発生しており、一刻も早い水門の完成を期待する。	引き続き、早期完成を目指して事業を推進する。
2	事業継続を要望	物価高騰により事業が遅れればさらに事業費がかかることになるので前倒しで進めてほしい。	引き続き、早期完成を目指して事業を推進する。
3	事業継続を要望	水門建設に伴い馬込川を横断する橋ができる予定。防潮堤とあわせて周辺の利用方法について検討してほしい。	馬込川河口部のにぎわい創出について、浜松市と一体となって検討していく。
4	事業継続を要望	インフォメーションセンターでVR体験をさせていただき感謝を受けた。小中学生にも水門を身近に感じてもらえる技術だと思う。	引き続き、県民の皆様に対して水門を身近に感じていただけるよう広報に努めていく。
5	事業継続を要望	建設現場を視察してスケールの大きさに驚いた。地域の方々の命を救うため頑張ってほしい。	引き続き、早期完成を目指して事業を推進する。
6	事業継続を要望	地元に住んでいるが、youtubeなどによる事業進捗の報告はありがたい。大規模工事で大変だと思うが頑張ってほしい。	引き続き、早期完成を目指して事業を推進する。
7	事業継続を要望	毎年現地を視察しているが、工事が着々と進捗しているのがよくわかる。上流の橋からも水門が見えるようになったので、みんな興味を持っている。	引き続き、早期完成を目指して事業を推進する。
8	事業継続を要望	地元を守るために水門は必要。現場見学会が毎年開かれていることを知らなかつた。普段なかなか見れないものが見れて面白かった。来年も必ず参加したい。	引き続き、県民の皆様に対して水門を身近に感じていただけるよう広報に努めていく。
9			
10			